

「田んぼの学校」実施報告書

2015年度

野川で遊ぶまちづくりの会

目次

1. 企画書	1
2. 実施計画・報告書	2
3. 会計報告	3 6
4. おたより	3 8
5. 参加者名簿	7 5
6. 参加者感想文集	7 7
7. 総括報告	1 1 6

1. 企画書

「田んぼの学校」

企画名：佐須で持続可能社会を实践！！

野川で遊ぶまちづくりの会

都会の谷戸と湧き水の小川

東京の区部に隣接する調布市には多摩川の支流である野川が流れています。野川は府中崖線の湧き水を集めて流れる都会では貴重な清流です。その野川に府中崖線の谷戸から湧き出る水を源流とする小川（一部コンクリートによる用水路）があり、昔から、谷戸から野川までの川沿いに田んぼがありました。今でも田んぼを続ける農家があり、谷戸には雑木林があり、ホタルも飛ぶ都会では信じられないような環境が残っています。しかしながら、田んぼも減りつつあり、雑木林も手入れがされず、このままでは、この貴重な環境がなくなってしまう。

田んぼで遊び、学ぼう

私たちの会では、会の名前にあるとおり、野川で遊びながら、野川を子供達が遊べる（泳げる）川にするために、まちづくりの提言をしていこうという趣旨で活動（1991年2月発足、ホームページ：<http://nogawa-tanbo.jp/>）しています。

野川の支流である小川（通称佐須用水）の清掃と生き物観察会をしているとき、会員の一人が田んぼをやらないかとおつづやいた一言がこの地で田んぼをやるきっかけになりました。

何事も実践（遊ぶこと）からという私たちの活動にはぴったりの課題でした。野川のいのちはこの湧き水です。この湧き水がまた多くのいのちを育てているということ、体感できる田んぼはまさしく「田んぼの学校」でした。幸い、近くの農家に友人がおり、援農という形で、田んぼを始めることができました。それから24年、会員を中心に田んぼをやってきて、自分達だけでなんとかできるという自信がつくところまで来ました。

昨年も同様の企画で後援をいただき、事業を実施することができました。本年も田んぼを調布に残したいという私たちの想いで「田んぼの学校」を継続する所存です。

この地域を保全するため、またよりよくするため、市民の方々に広く知っていただくために親子（子供は小中学生）参加者、田んぼの保全事業の後継者育成を目指した参加者を公募し、広く市民に理解していただくことを企画いたします。具体的な内容は日程表をご参照下さい。

2. 実施計画・報告書

「野川で遊ぶまちづくりの会」
「田んぼの学校」2015年度日程表

時限	日付	曜日	開始時刻	終了時刻	作業・行事	課題	目的	備考
1	4月5日	日	10:00	15:00	◎「田んぼの学校」開校式◎ 説明会◎春の植物観察		当会の活動を理解してもらおう。また、今後の心構えなどを話し合う。田んぼの春を感じてもらおう。	
2	4月12日	日			種籾準備(水に浸ける)	種って何? どうして芽が出るの?	種の働きを理解する。	
3	4月18日	土	10:00	15:00	◎苗床作り		苗を育てる場所で、苗の成長に大きな影響がある。苗が順調に成長するための準備を十分に作る。	
4	4月19日	日	10:00	12:00	◎種まき	種籾の不思議にせまる	苗半作という言葉があり、昔から苗作りが大切であることをあらわしていた。	
5	4月19日	日	13:00	15:00	◎用水路清掃 ◎生き物観察	用水路には何がいます?	地域と用水路(佐須用水)の関わりを考える。なぜ、用水路にゴミを捨てるのか。	
6	5月10日	日	10:00	12:00	◎堆肥入れ ◎荒起こし ◎畦草刈り ◎くろつけ準備	堆肥の養分は何? 田んぼの荒起こしをしているとなぜか鳥がやってくる?	雑木林から落ち葉を集め、鶏糞や糠、藁などで堆肥を作る有機農法は昔から普通に農家で行われたことを理解する。化学肥料との違いは何かを考える。	
7	6月7日	日	10:00	12:00	くろつけ	くろつけは何のため?	くろつけは水漏れを防ぐ知恵である。今ではコンクリートなどで整備された田んぼがあるが、なにもなければ知恵が働くと言うことを学ぶ。	
8	6月13日	土	10:00	15:00	◎苗取り ◎しろかき	しろかきは何のため?	くろつけが入れ物の縁とすると、しろかきは入れ物の底からの水漏れを防ぐ知恵である。昔から田んぼにしてきたところは底が粘土状になっている。	
9	6月14日	日	10:00	13:00	田植え	丈夫に育て!	米作りで田植えは昔から村総出で行う大きなイベントであった。昔も今も神様に祈る気持ちは同じである。人ができる主なことはここで終わると言うこともある。	
10	6月10日	水	18:00	20:00	ホタル鑑賞会	ホタルはどこに棲む?	ホタルの生育できる環境を理解する。	
11	7月12日	日	10:00	13:00	◎一番草(草取り、根掻き) ◎畦草刈り ◎田んぼの生き物観察	田んぼに何がいます?	オタマジャクシ、ミジンコなど生き物でいっぱいになる田んぼでなにが起こっているか考える。	
12	8月21日	金	9:00	12:00	夏祭り準備			
12	8月21日	金	13:00	21:00	柏野夏祭り参加(焼き鳥)		地域の祭りに参加し、交流を図る。	
12	8月22日	土	13:00	21:00	柏野夏祭り参加(焼き鳥)		地域の祭りに参加し、交流を図る。	
12	8月23日	日	9:00	12:00	夏祭り片付け			
13	9月13日	日	10:00	11:00	田んぼ生き物観察	田んぼに何がいます?		
14	9月13日	日	11:00	13:00	カカシ作り	カカシって何してるの?	稲の穂に付いた籾をねらって鳥が来る。人も鳥も生きていることを考える。	
15	10月10日	土	10:00	13:00	◎ハザ掛け準備 ◎稲刈り			

「野川で遊ぶまちづくりの会」
「田んぼの学校」2015年度日程表

時限	日付	曜日	開始時刻	終了時刻	作業・行事	課題	目的	備考
15	10月11日	日	10:00	13:00	◎稲刈り ◎レンゲ種まき	刈った稲を干すのはなぜ？	稲を干すのはなぜなのか考える。	
16	10月25日	日	10:00	13:00	脱穀			
17	11月1日	日	10:00	12:00	粃摺り			
18	11月15日	日	10:00	12:00	精米	玄米、胚芽米、精米の違い	一粒の米に託されたものを考える。	
19	11月23日	月	8:30	15:00	収穫祭(餅つき、豚汁)	お米を作ったのは誰？	お米作りを通して、人と自然の役割を考える。	
20	12月6日	日	9:00	16:00	親子炭焼きディキャンプ		◎炭焼きの実践を花炭焼きで体験し、雑木林の役割を	
21	12月13日	日	10:00	12:00	落ち葉拾い(堆肥作り)	雑木林って何？	雑木林の役割を考える。	
22	12月13日	日	13:00	15:00	しめ縄作り	しめ縄の由来は？	お米作りとしめ縄の関係は？	
23	1月9日	土	11:00	13:00	佐須地区どんど焼き	どんど焼きってなに？	地域に根づいている行事に関心を持ち、生活との関わりを学ぶ。	
24	1月10日	日	10:00	12:00	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	
25	2月7日	日	10:00	12:00	堆肥切り返し		堆肥発酵促進	
26	2月7日	日	13:00	15:00	縄織い、草鞋づくり	昔の人は稲藁でさまざまな生活に必要なものを作ってきました。そのひとつが縄です。今年から草鞋作りも行い	稲藁を使って縄を織うことを通して先人の知恵を学ぶ。	
27	3月6日	日	12:30	15:00	「田んぼの学校」卒業式(反省会)	米づくりを終えて	この1年で考えたこと、学んだことを確認する。	

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	4月5日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	15:00
実施日	4月5日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	15:00
作業:	◎「田んぼの学校」開校式◎説明会◎春の植物観察					
課題:						
目的:	当会の活動を理解してもらう。また、今後の心構えなどを話し合う。田んぼの春を感じてもらう。					
内容:	参加者顔合わせ(自己紹介)、年間予定説明、名簿作成、質疑応答。田んぼの野草観察を行う。					
要領:	<ul style="list-style-type: none"> ●開会の挨拶 ●説明会(当会の概要、年間日程、援農) ●質疑応答 ●参加確認(多数の場合、抽選) 					
準備:	●佐須ふれあいの家を借りる。					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
				了時刻		
						
留意事項:						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	4月12日	日	開始時刻		終了時刻	
実施日	4月12日	日	開始時刻	0:00	終了時刻	0:00
作業:	種籾準備(水に浸ける)					
課題:	種って何? どうして芽が出るの?					
目的:	種の働きを理解する。					
内容:	種籾を選別し、発芽させる。					
要領:	●最初に薄い食塩水(新鮮な卵が浮く程度)に種籾をつけて、浮いた種籾を選り分ける(苗床の余ったところで蒔いてみるのもいい)。●一度洗って、きれいな水に浸ける。酸素を必要とするので1日に一回は水を取りかえる。●発芽したら、冷蔵保存(5から10℃)する。●種蒔の前日に発芽していない場合、風呂の残り湯(30℃以下)につけ					
準備:	●参加者に一握りずつ分けるもち米の種籾を用意する●					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	百宅で実施					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	4月18日	土	開始時刻	10:00	終了時刻	15:00
実施日	4月18日	土	開始時刻	10:00	終了時刻	15:00
作業:	◎苗床作り					
課題:						
目的:	苗を育てる場所で、苗の成長に大きな影響がある。苗が順調に成長するための準備を十分に作る。					
内容:	●苗を育てるための苗床を作る。					
要領:	●田んぼの南側に幅1.2m、長さ12mくらいの広さの短冊畝つくる。土の塊は種籾より小さくなるように、大きなものを手ですりつぶす。●高さは他と同じにする。高くすると、乾燥しやすくなるため。●畝の両脇は7cmくらいの深さで水路を作り水を入れる。					
準備:	●農協で100mのネットを購入する。●湿った土では土が固まりやすいので、乾燥した時でないと苗床作りはできない。天候によっては日程を変更する。●ただし、代掻きした苗床に種を蒔く方法もある。(直播きに近い)					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
					終了時刻	
						
	留意事項:					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	4月19日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00
実施日	4月19日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00
作業:	◎種まき					
課題:	種籾の不思議にせまる					
目的:	苗半作という言葉があり、昔から苗作りが大切であることをあらわしていた。					
内容:	●種籾を蒔く。					
要領:	●もち米と粳米の種籾を4, 6の割合で、区別(もち米に粳米が混ざるともちにならない)して蒔く。●種籾は重ならない程度に密に蒔く。●薄く(5mmほど)土をかける。●かまぼこ状にネットをかける。					
準備:						
用具:	ネット、ネットフレーム(20本)、ふるい					
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
				終了時刻		

				-----		
				留意事項:		
	-----			-----		

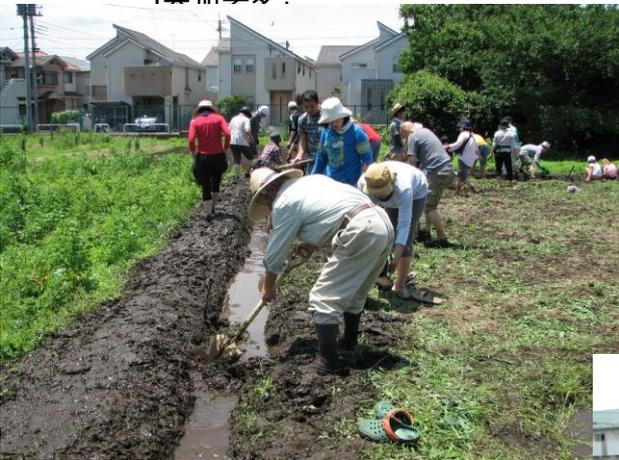
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	4月19日	日	開始時刻	13:00	終了時刻	15:00
実施日	4月19日	日	開始時刻	13:00	終了時刻	15:00
作業:	◎用水路清掃 ◎生き物観察					
課題:	用水路には何がいますか？					
目的:	地域と用水路(佐須用水)の関わりを考える。なぜ、用水路にゴミを捨てるのか。					
内容:	●佐須街道から野川までの佐須用水(本流)のゴミ拾いをする●同じところで、水棲動物を捕獲して観察会を行う。					
要領:	●用水路に入り、ゴミ拾いをする。●ゴミは分別する。●空缶の中にはザリガニがいるので、捕獲する。●ゴミはリヤカーで集め、児童館裏に置かせてもらう。					
準備:	●クリーンセンター(ごみ対策課)に届け出、佐須児童館に連絡をする。					
用具:	●ゴミ袋、リヤカー、軍手●水槽、水棲動物用捕獲網					
服装・装備:						
担当者:	講師: 石川氏					
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	終了時刻					
						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	5月10日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00
実施日	5月10日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00
作業:	◎堆肥入れ ◎荒起こし					
課題:	堆肥の養分は何？ 田んぼの荒起こしをしているとなぜか鳥がやってくる？					
目的:	雑木林から落ち葉を集め、鶏糞や糠、藁などで堆肥を作る有機農法は昔から普通に農家で行われたことを理解する。化学肥料との違いは何かを考える。					
内容:	●堆肥を田んぼに均等に撒く●撒いた堆肥を耕運機で漉き込む●畦の草刈りをする。●刈った草は田んぼに撒く。●畦の際に水路を作り、水を引く。					
要領:	●水路に堰を作り、田んぼに水を引き入れる●畦の際に水路を作る●畦に泥を塗り付ける分を畦から削る					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
写真				終了時刻		

				留意事項:		

				備考:		

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	6月7日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00
実施日	6月7日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00
作業:	くろつけ					
課題:	くろつけは何のため？					
目的:	くろつけは水漏れを防ぐ知恵である。今ではコンクリートなどで整備された田んぼがあるが、なにもなければ知恵が働くということを学ぶ。					
内容:	●畦に泥を塗りつける。●					
要領:	●取水口から一番遠いところからくろつけをする●水加減をしながら泥をこねて、畦の上部と壁面に5cmくらいの厚さで泥を塗る●くろつけが終わったら畦際の水路に水を引き入れ、くろが乾かないようにする					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	終了時刻					

						
	留意事項:					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	6月14日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	13:00
実施日	6月14日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	13:00
作業:	田植え					
課題:	丈夫に育て!					
目的:	米作りで田植えは昔から村総出で行う大きなイベントであった。昔も今も神様に祈る気持ちは同じである。人ができる主なことはここで終わると言うこともある。					
内容:	●田植えをする●南側にもち米を田んぼの四割くらい植える					
要領:	●30cm間隔に印のついた縄(25m)を張り、印のついたところに植える。●縄は25cm間隔でずらしていく。●苗を植える人は、植え終わったら一步下がって自分の足跡をならす。●水は少な目に張る。					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	終了時刻		12時			
	留意事項:					
備考:						
						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	6月10日	水	開始時刻	18:00	終了時刻	20:00
実施日			開始時刻	0:00	終了時刻	0:00
作業:	ホテル鑑賞会					
課題:	ホテルはどこに棲む？					
目的:	ホテルの生育できる環境を理解する。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻	13時			終了時刻	16時
	実施内容:					
	観察会は都合により中止					

備考:	留意事項:					

プログラムマニュアル										
プログラム名称:	田んぼの学校									
実施予定日	7月12日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	13:00				
実施日	7月19日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	13:00				
作業:	◎一番草(草取り、根掻き) ◎畦草刈り									
課題:	田んぼに何がいます?									
目的:	オタマジャクシ、ミジンコなど生き物でいっぱいになる田んぼでなにが起こっているか考える。									
内容:										
要領:										
準備:										
用具:										
服装・装備:										
担当者:	講師:石川氏									
実施記録:	指導担当者名:									
	参加者名:									
				終了時刻						
留意事項: <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/> <hr style="border-top: 1px dashed black;"/>										
備考:										

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	8月21日	金	開始時刻	13:00	終了時刻	21:00
実施日	8月21日	金	開始時刻	13:00	終了時刻	21:00
作業:	柏野夏祭り参加(焼き鳥)					
課題:						
目的:	地域の祭りに参加し、交流を図る。					
内容:	●2000本の焼き鳥を焼いて、1本100円で販売する。					
要領:	●焼き鳥は冷凍なので、開封して自然解凍する。●発泡ダンボールの箱で保存する。 ●タレは焼いた後1回だけ付ける●					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
				終了時刻		
						
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル							
プログラム名称:		田んぼの学校					
実施予定日	8月22日	土	開始時刻	13:00	終了時刻	21:00	
実施日	8月22日	土	開始時刻	13:00	終了時刻	21:00	
作業:	柏野夏祭り参加(焼き鳥)						
課題:							
目的:	地域の祭りに参加し、交流を図る。						
内容:	●2000本の焼き鳥を焼いて、1本100円で販売する。						
要領:	●焼き鳥は冷凍なので、開封して自然解凍する。●発泡ダンボールの箱で保存する。 ●タレは焼いた後1回だけ付ける●						
準備:							
用具:							
服装・装備:							
担当者:							
実施記録:	指導担当者名:						
	参加者名:						
備考:				終了時刻			
							
	留意事項:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	9月13日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	11:00
実施日	9月13日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	11:00
作業:	田んぼ生き物観察					
課題:	田んぼに何がいます?					
目的:						
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					

備考:	留意事項:					

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	9月13日	日	開始時刻	11:00	終了時刻	13:00
実施日	9月13日	日	開始時刻	11:00	終了時刻	13:00
作業:	カカシ作り					
課題:	カカシって何してるの？					
目的:	稲の穂に付いた糲をねらって鳥が来る。人も鳥も生きていることを考える。					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
						
	<hr/> <hr/> <hr/>					
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	10月10日	土	開始時刻	10:00	終了時刻	13:00
実施日	10月10日	土	開始時刻	10:00	終了時刻	15:00
作業:	◎ハザ掛け準備 ◎稲刈り					
課題:						
目的:						
内容:	●ハザ掛けをつくる(南北2列)●稲刈りはもち米から先にする●うるちと混ざらないように注意する。					
要領:	●ハザ掛けの足場を先に刈る●足は垂木3本1組として三脚を作る●三脚3組で1列とし、2列作る●梁は2段にする。2段目は釣り下げにする●梁の竹は細ければ2本組にする					
準備:	●足になる垂木、3本1組、6組分●梁にする竹(10m)10本くらい●網掛け用竹棒(3m)15本くらい●鳥除け網40mくらい●荒縄(太)1巻●結束用稲わら					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
					終了時刻	
						
	留意事項:					
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	10月11日	金	開始時刻	10:00	終了時刻	13:00
実施日			開始時刻	0:00	終了時刻	0:00
作業:	◎稲刈り ◎レンゲ種まき					
課題:	刈った稲を干すのはなぜ？					
目的:	稲を干すのはなぜなのか考える。					
内容:	鳥除けの網を張る。					
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻		終了時刻			
	実施内容:					
	雨の予報のため、前日終了					
	----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- ----- -----					
備考:	留意事項:					
	----- ----- -----					

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	10月25日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	13:00
実施日	11月1日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	13:00
作業:	脱穀					
課題:						
目的:						
内容:	●稲穂から種籾を取る●来年の種籾を確保する。					
要領:						
準備:	佐須地区の共同脱穀機(自走式)を借り、田んぼへ移動する。					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					
	脱穀機不調で10月25日は中止					
						
留意事項:						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	11月1日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00
実施日	11月15日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	15:00
作業:	粃摺り					
課題:						
目的:						
内容:	●種粃から粃殻を取る					
要領:						
準備:	●粃摺り機 ●モーター ●みの ●米袋10枚					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
開						
実						
留						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	11月15日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00
実施日	11月15日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	15:00
作業:	精米					
課題:	玄米、胚芽米、精米の違いは何？					
目的:	一粒の米に託されたものを考える。					
内容:	●精米機で精米する。●粳米は7分くらいにする。					
要領:	●					
準備:	●佐須地区の共同精米所にて行う。●カギは当番のところで借りる。●精米費は30Kg200円？を会計担当に支払う。(領収書無しです。)●カギと、会計の担当は竹内さんに確認する。●みの					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	11月23日	月	開始時刻	8:30	終了時刻	15:00
実施日	11月22日	日	開始時刻	8:30	終了時刻	15:00
作業:	収穫祭(餅つき、豚汁)					
課題:	お米を作ったのは誰?					
目的:	お米作りを通して、人と自然の役割を考える。					
内容:						
要領:						
準備:	2000年に臼と杵は知人より入手した。かまどと、せいろは八雲台幼稚園の小林さんか佐須児童館で借りる。					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
	終了時刻					
						
留意事項:						
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	12月6日	日	開始時刻	9:00	終了時刻	16:00
実施日	12月6日	日	開始時刻	9:00	終了時刻	16:00
作業:	親子炭焼きディキャンプ					
課題:						
目的:	◎炭焼きの実践を花炭焼きで体験し、雑木林の役割を考える。 ◎火起こし体験					
内容:						
要領:						
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	終了時刻					
						
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	12月13日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00
実施日	12月13日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00
作業:	落ち葉拾い(堆肥作り)					
課題:	雑木林って何?					
目的:	雑木林の役割を考える。					
内容:	カニ山で落ち葉を集め、堆肥置き場に積む。その時、米糠と鶏糞を混ぜ、水を十分にかき、シートをかぶせる。					
要領:						
準備:	米糠(自前の米糠が約20Kg、他に山田屋お米館で有機栽培米糠3袋(15Kg×3)を購入する。また、農協(神代支店)で鶏糞2袋(10Kg×2)を購入する。					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					

留意事項:	-----					

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	12月13日	日	開始時刻	13:00	終了時刻	15:00
実施日	12月13日	日	開始時刻	13:00	終了時刻	15:00
作業:	しめ縄作り					
課題:	しめ縄の由来は？					
目的:	お米作りとしめ縄の関係は？					
内容:	しめ縄も稲藁の利用の一つです。					
要領:						
準備:	佐須ふれあいの家を使用					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	1月9日	土	開始時刻	11:00	終了時刻	13:00
実施日	1月16日	土	開始時刻	11:00	終了時刻	13:00
作業:	佐須地区どんど焼き					
課題:	どんど焼きってなに？					
目的:	地域に根づいている行事に関心を持ち、生活との関わりを学ぶ。					
内容:	佐須地区どんど焼きにて餅つきを手伝う					
要領:	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。					
準備:						
用具:	くい打ち用木製ハンマー、フォーク、バケツ					
服装・装備:	作業着、軍手、長靴					
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
	開始時刻				終了時刻	
	実施内容:					
	中止					

留意事項:						

備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	1月10日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00
実施日	1月10日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00
作業:	堆肥切り返し					
課題:						
目的:	堆肥発酵促進					
内容:	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。					
要領:	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
						
備考:						

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	2月7日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00
実施日	2月7日	日	開始時刻	10:00	終了時刻	12:00
作業:	堆肥切り返し					
課題:						
目的:	堆肥発酵促進					
内容:	堆肥を移動することで、堆肥の切り返しを行う。					
要領:	●堆肥を堆肥置き場の空いているところへ移動する。その際、積んであった堆肥が天地が逆になるようにする。●水分が足りないようであれば、バケツで水をかける。●必要であれば、鶏糞、米糠などを補充する。					
準備:						
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
						
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:		田んぼの学校				
実施予定日	2月7日	日	開始時刻	13:00	終了時刻	15:00
実施日	2月7日	日	開始時刻	13:00	終了時刻	15:00
作業:	縄織い、草鞋づくり					
課題:	昔の人は稲藁でさまざまな生活に必要なものを作ってきました。そのひとつが縄です。今年から草鞋作りも行います。					
目的:	稲藁を使って縄を織うことを通して先人の知恵を学ぶ。					
内容:	稲藁を使った縄織い。					
要領:						
準備:	佐須ふれあいの家を使用					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
						
備考:						

野川で遊ぶまちづくりの会

プログラムマニュアル						
プログラム名称:	田んぼの学校					
実施予定日	3月6日	日	開始時刻	12:30	終了時刻	15:00
実施日			開始時刻	0:00	終了時刻	0:00
作業:	「田んぼの学校」卒業式(反省会)					
課題:	米つくりを終えて					
目的:	この1年で考えたこと、学んだことを確認する。					
内容:	●軽食を取りながら行う。●●					
要領:						
準備:	佐須ふれあいの家を使用					
用具:						
服装・装備:						
担当者:						
実施記録:	指導担当者名:					
	参加者名:					
						
備考:						

3. 會計報告

2015年度収支決算

	科目	コード	金額	備考
収入の部	前期繰越金	1000	2,005	
	受講料	1110	534,000	柏野夏祭り模擬店収益等
	事業収入	1120	3,351	
	会費	1210	10,000	
	寄付	1310	70,000	米代他
	預かり金	1320	38,600	
	立替入金	1330	50,000	
			0	
収入の部合計			707,956	
支出の部	消耗品費	2110	32,840	
	通信費	2120	2,309	インターネットサーバ他
	材料費	2130	698	種など
	交際費	2140	47,365	
	会議費	2150	45,143	
	教材費	2160	1,800	
	講師料	2170	228,000	
	講師補助費	2171	192,500	
	保険料	2180	0	
	燃料費	2190	660	
	印刷費	2200	5,000	
	修理費	2210	6,480	
	光熱水費	2220	10,000	
	賃貸料	2230	2,400	ふれあいの家
	交通費	2240	200	米代
	広報費	2250	40,000	
	預かり金支出	2310	38,600	
	立替金	2320	50,000	
	手数料	2330	0	
	参加会費	2340	1,000	
支出の部合計			704,995	
収支差額			2,961	

4. おたより

田んぼからのおたより2015

第1号 2015年4月12日発行

みなさん、お元気ですか。いよいよ「田んぼの学校」が始まりました。この「おたより」はこれから「田んぼの学校」とみなさんとのお互いの架け橋として創られます。内容は、「田んぼの学校」からのお知らせや、みなさんからのご意見などです。「田んぼの学校」についてわからないことがありましたら、お知らせください。私たち「田んぼの学校」のスタッフも15年目になりました。気がついたこと、いたらないことがありましたら教えてください。わからないことも質問してください。

体験をより充実させる為に

さて、「田んぼの学校」では、みなさんが田んぼでやったこと、見たこと、感じたことを記録することをお勧めします。ノートか野帳（野外観察用のフィールドノート）を用意し、思い思いに記録してください。できましたら、写真（撮りきりカメラで十分）も有るといいと思います。その日にあったこと、学んだことをお子さんと一緒に振り返ることで、体験がより充実したものになります。

種はつながっている

お米の起源は約15000年前、インドもしくは中国雲南で始まったそうです。お米も最初は野生のもので、昔の人は野生の種をまいて育てたようです。そのうちに、まいて育てた稲から種をとるようになり、その種を持って東へ移り住み、または、東の地方にいる人に伝えられ、2000から3000年前に日本に伝わったといわれていましたが、それより以前、6千年前の縄文時代に稲作の痕跡が見つかっています。

お手元にある種籾は、そのときの種とつながっています。品種改良はされていても、遺伝子という形でつながっているのです。

人間を含む多くの動物（昆虫など）もお米よりもさらにさかのぼる年月にわたってつながっています。機会があるようでしたら、自分たちのルーツをわかる範囲で追いかけてみてはいかがでしょうか。

つながらない種

科学が発達して、いろいろなことができるようになりました。その中でも重要なもののひとつに遺伝子に関する技術や発見があります。遺伝子組み換えは、はるか昔からつながっているお米の種に、つながらないものができるということを意味しています。大変難しい問題ですが、一度考えてみる必要があります。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

4月12日(日)の学習 内容「種籾(たねもみ)の準備」 場所「自宅」

昔から、お米の豊作を願わないものはいませんでした。その最初の仕事が種籾の選別です。中身の詰まった重い種籾が丈夫な稲に育つことを昔の人は経験的に知っていました。

ではどのようにして重い種籾と軽い種籾を区別したのでしょうか。昔の人は、泥水に種籾をつけて沈んだ種籾を使っていました。浮いた種籾は軽くて悪い種籾として選別していたのです。

今は、塩水を使います。薄い食塩水に種籾をつけると重くて良い種籾は沈み、軽くて栄養分の少ない種籾は浮きます。これを「塩水選」といいます。真水では沈む種籾も薄い食塩水では浮くのはなぜでしょうか。おとうさん、おかあさん、子供といっしょに考えましょう。

それでは、入学式でお渡しした種籾(もち米で銘柄はマンゲツモチ)で塩水選をやってみましょう。

1. 準備

鍋やボールなど適当な入れ物を用意して下さい。

2. 食塩水

真水(水道水でも可)200ccに塩16gを溶かして下さい。この食塩水の比重は約1.08です。もち米はこの食塩水で塩水選をします。かなりしょっぱい食塩水です。

3. 塩水選

この食塩水に種籾をつけてください。

種籾全体をこの塩水につけ、ここで、

沈んだ種籾が良い種籾です。浮いた種籾と沈んだ種籾を別にしてとりだし、それぞれ水で洗ってください。(塩分がついたままでは発芽に悪い)

水の表面張力で浮いている場合がありますので、注意してください。

4. 芽だし

次に、発芽を促すために種籾を新鮮な水に浸けておきます。選別した種籾の両方を同じように別々に水につけてみてください。15℃の水で、約1週間つけると発芽します。20℃なら5日くらいになります。水の温度が高くと早く発芽します。4月20(日)が種まきの予定ですが、それより早く芽が出たら(芽と根が1mm位になったら)、水を切って当日まで冷蔵庫に入れておいてください。低温にすることで発芽の成長が一時的に止まります。くれぐれも芽や根を伸ばしすぎて、モヤシのようにしないようにしてください。

以上



田んぼからのおたより2015

第2号 2015年4月18日発行

みなさん、お元気ですか。もうこの「おたより」の2回目になりました。

いよいよ、田んぼでのしごとがはじまります。田んぼでは、たくさんの生き物たちがみなさんをむかえてくれます。いろいろな草花、虫、鳥などです。どんな生き物に出会えるか楽しみです。

わからないことがある場合は、遠慮なくお問い合わせ（尾辻 080-5012-5327）ください。

畑の広さの単位

田んぼの広さの単位についてちょっと調べてみました。私たちの田んぼは、3畝（せ）あります。約100坪（つぼ）。坪は畳2枚（3.3平方m）です。

1畝（約99平方m）、10畝で1反（たん、約991平方m）、10反で1町（ちょう、約9917平方m）です。

1畝は約1アール、100アールで1ヘクタールなので、1町が約1ヘクタールになります。

豊臣秀吉は、太閤検地と呼ばれる田畑の全国測量を行いました。そのとき、度量衡の統一も行われました。そのときに、1反360歩を300歩にしました。1畝30歩となり、1アールにきわめて近い値になりました。秀吉（実際に指揮したのは石田三成）は1アールという単位を知っていたものと思いましたが、調べた範囲ではそれらしい記述が見つかりません。反あたりの税収を上げるために300歩にしたという記述がありましたが、どうでしょうか。みなさんも調べてみませんか。

苗づくり

私たちの田んぼでは、田んぼの中に苗床を作ります。温室などで苗を作らない場合、平均気温が20度以上にならないと成長に影響があります。今年は、例年より暖かい日が多いので、苗の成長が順調に進みそうです。

お米を生産する農家では、機械植えが普通なので、苗は温室で育てられ、5月中旬ごろ（関東）には田植えが行われます。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



4月18日(土)の学習(10:00~15:00) 苗床作り

4月19日(日)の学習(11:00~12:00) 種まき

内容： 苗床作り、種まき
場所： 田んぼ
持ち物その他： 作業着、軍手、昼食



苗床作り(18日)

苗床(なえとこ)は種籾をまいて稲の苗を育てるところです。発芽した種籾はここで丈夫な苗として育ちます。

1. 田んぼの南側寄りに1m幅、4m長の広さで苗床用の場所を東西方向に2本確保し、草を刈り取ります。
2. 耕運機でできるだけ細かく耕します。
3. 中央に1m幅の短冊状の畝(うね)を作ります。高さは周囲と同じ高さにします。
4. 両脇に10cmくらいの深さで水路をつけ、用水の引き込み口から水路をつなげて水を引き込めるようにします。
5. 畝は草の根やごみを取り除き、大きな土の固まりはふるいで選り分けて手ですりつぶします。

畦草刈り

農家の人にとって雑草(正確にはいろいろな野草というべき)は天敵と考えられています。雑草は、作物の栄養分を取ってしまったり、成長を妨げたりするからです。雑草取りは農家の人にとっては大変な重労働なので、除草剤などが使われたりしますが、有機農法では除草剤は使いません。最近では、雑草を味方にする研究なども行われています。いずれにしても、まわりの畑に雑草の種が撒き散らされることも有るので、雑草をそのままにすることはできません。

1. 小さい草刈りガマで畦(あぜ)の草刈りをします。
2. 刈り取った草は適当な場所に積み上げておきます。後日、荒起こしのときに田んぼに漉き込みます。このように刈り取った草は緑肥と呼ばれ、立派な有機肥料です。漉き込まれた草は土の中で腐敗して肥料になるからです。

畑の草取り

暖かくなると、畑にもどんどん草が生えてきます。小さいうちにとるのが賢明です。

種まき(19日11時から)

みなさんに準備していただいた種籾(もち米)と当会が準備した種籾を苗床に蒔きます。蒔き方はいろいろ有りますが、ちょうど良く蒔く(?)のがいちばん。

1. 苗床をもち米用（南側）、うるち米用（北側）にわけます。
2. 用意した種粃を厚すぎず、薄すぎず、ちょうど良く蒔きます。
3. 各自準備した種粃も、蒔きます。
4. 蒔いた種粃の上に薄く（3から5mmくらい）細かい土をかけます。（覆土・ふくど）
5. 板などを使ってある程度土を固めます。（鎮圧・ちんあつ）
6. 苗床全体にかまぼこ状にネット（寒冷紗・かんれいしゃ）をかけます。（防鳥）
7. 水路に水を引き込みます。水はかれない程度に苗床の周囲に回るようにします。

田んぼからのおたより2015

第3号 2015年4月19日発行

みなさん、お元気ですか。もうこの「おたより」の3回目になりました。

私たちの田んぼは佐須の用水に依存しています。現在も水利組合によって私たちの使っている用水の支流は田んぼで水を使う時期に泥さらいを行っています。本流は残念ながら、手つかずの状態です。23年ほど前、佐須用水の貴重な環境に注目した私たちは、ゴミが大量に捨てられている用水路の清掃を兼ねた生き物観察会を始めました。最初の1、2年はトラック1台分位のゴミを回収したこともありましたが、いまではその10分の1くらいまで減っています。それでも、毎年ゴミが回収される状況が続いています。昔は、用水で洗い物などを行っていることもあり、ゴミを捨てるようなことはなかったと思いますが、今では、用水に依存することがない人が多く住むようになって、その大切さが意識されていません。私たちの活動で、用水の貴重さが理解されることを期待しています。

今日は、4月5日に予定していた野草観察会もあわせて行います。用水路と合わせて、豊かな生き物の姿をじっくり見ていただきたいと思います。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

4月19日(日)(10:00~11:00) 野草観察会

4月19日(日)(13:00~16:00) 用水路清掃、生き物観察会

- 内容： 野草観察会、用水路清掃、生き物観察会
場所： 佐須用水、田んぼ
持ち物その他： 作業着、軍手、用水路に入ることのできる靴（サンダルは不可）
子供の着替え（水につかってしまうことがあります）
昼食、種籾

田んぼの野草観察会

春の田んぼには、たくさんの野草が顔を出します。20種類を超える野草を解説付きでじっくり観察していただきます。

用水路清掃

私たちの田んぼは、カニ山奥の谷戸から湧き出る水を利用しています。このように水を地域の人たちと共同で利用する場合、利用する人たちが集まって組合を作り、共同で管理することが大昔から行われてきました。「田んぼの学校」でも利用させていただき感謝の意味を込めて、また、そこに生きる生き物たちが棲みやすいようにと清掃活動を続けてきました。



用水路生き物観察会

用水路清掃にあわせて行われるのが用水路の生き物観察会です。田んぼに水を供給してくれる用水は、同時に、多くの水生生物の恵みにもなっています。湧水は元は直接飲料水に使えるほどきれいなものでしたが、多くの人々が周りに住むようになり、その影響を受け、次第に飲料水としては使えなくなりました。（今でも沸騰させれば飲めます）用水路の生き物を観察することは、水の汚れ具合を知る指標にもなります。そこに生きている生き物が、この水の安全性を証明してくれているわけです。

田んぼからのおたより2015

第4号 2015年5月10日発行

みなさん、お元気ですか。私たちの田んぼの最大の問題は水です。昨年度、調布市は私たちの田んぼがある深大寺・佐須地域について里山の風景を残すために都市農業を応援する事業を実施しました。その中に、佐須用水の流量確保のための事業があり、井戸が掘られて、水が少ない場合に井戸からくみ上げることが出来るようになりました。田んぼを続けるために長年の、最大の懸案が解決し、一安心です。

柏野小学校裏の田んぼに、今年は草が生えていましたが、今は茶色になって枯れています。さらに道を挟んで北側の田んぼは草が生えていません。その東側のホテル園コーポ前の田んぼは毎年草がいっぱいです。私たちの田んぼも草でいっぱいでした。草が生えないということは、そこには草の種がまったくとっていいほどないということの意味しています。それでも草の種は飛んできたり、動物が運んだりして芽を出し、成長して、やがて種を落としますが、その前に草を取ることで次の世代を作らなければ草のない畑になります。除草剤の助けがなければ、大変な仕事です。雑草が全く生えない田んぼはちょっと気になります。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



5月5日の田んぼ

5月10日（日）10：00～12：00 の学習

内容 ◎堆肥入れ◎畦草刈り◎畑草取り◎荒起こし◎くろつけ準備

場所「田んぼ」

堆肥入れ

堆肥置き場から堆肥を田んぼに運び漉き込みます。堆肥としてはできるだけ十分に発酵したものを使いますが、そうでなくても、土の中で更に分解されて肥料となります。

1. 堆肥をリヤカーで4, 5杯分田んぼに運んできます。
2. 堆肥を田んぼ一面にまんべんなく撒きます。
3. 小枝などの硬いものは分解されにくいので取り除きます。

畑と畦の草刈り

くろつけを行うために、畦の草を刈り取ります。畑の草取りも一緒に行います。

荒起こし

田んぼ全体を耕運機で荒く耕し、堆肥を土に漉き込みます。

くろつけ準備

畦の整理（昨年くろつけで盛った土を削ったり、崩れている部分を補修）を行ない、畦にそって水路の水を引き込み、くろつけの準備をします。

田んぼからのおたより2015

第5号 2015年6月7日発行

みなさん、お元気ですか。

例年のことですが、5月はやはり雨が少なく、水不足が一番の心配です。上流の田んぼが2反ほど減ってその分だけ水がありますが、そのままでは大変です。

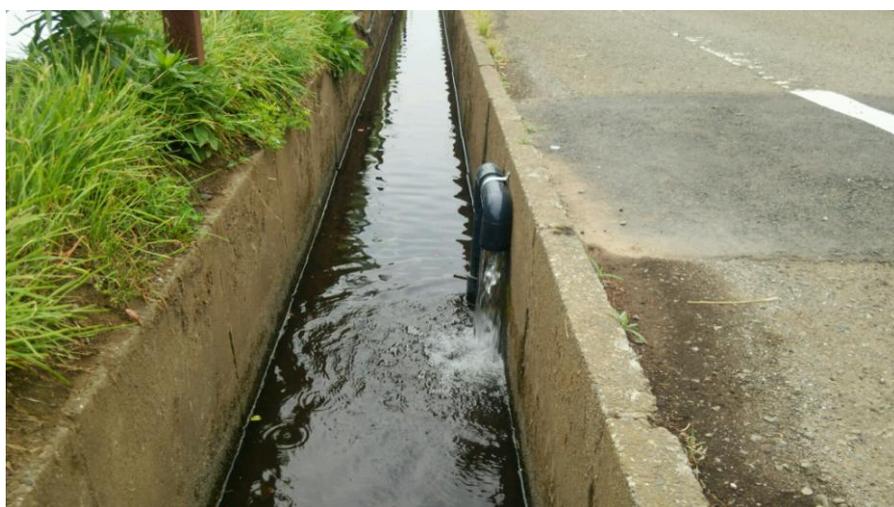
調布市は、佐須・深大寺地域の風景を維持するための事業の中で田んぼの水を確保するために井戸を掘りました。今年は、その井戸水でしろかき、田植えが出来そうです。

個人的なことになりますが、田んぼをはじめから生活の中で一番変わったことが、雨を単純に毛嫌いすることがなくなったことです。それまでは、雨になると外出が億劫になったりしたのですが、結構雨を楽しめるように変わったのです。現金なものですが、雨が大切な作物の生育に欠かせないものであり、生き物にとってなくてはならない水を供給する循環の一翼を担っている点で改めてその機能を見直したいです。

みなさんも、雨を見直してみませんか、そして楽しんでみませんか？

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

井戸の水です。



田んぼの様子
(6月3日)

6月7日（日）（10：00～14：00）の学習

内容「くろつけ」 場所「田んぼ」

服装 どんこになってもいい服装にしてください。子供は着替えを持ってきてください。
足で泥をこねたりしますので、長靴ではできません。基本的には裸足、地下足袋、
靴下でやります。

持ち物 タオル、着替え、昼食

くろつけ

－「くろ」とは畦（あぜ）のことです。「くろつけ」は畦から水が漏れないようにするための作業です。泥をこねて、畦に泥を塗りつけて、表面を滑らかにします。土だけではたくさんの小さな穴が空いているので、水が漏れてしまいます。土を泥状にすることで、土の粒の間のすきまがなくなり、水が漏れにくくなります。写真はくろつけの様子です。

1. 畦にそって引き込まれた水と田んぼの土をまぜて泥をこねる。泥は畦の天上部と内側に壁塗りをするように塗り付けるのにちょうどよい硬さにするのが早く仕上げるコツである。
2. くろつけは水の引き入れ口からみて一番奥の部分から仕上げていく。
3. くろつけが終わったら、畦が乾かないように水路をつけて水を引き込んでおく。
4. 田んぼの内部にも水が入るように水路をつける。
5. 水路に水がなくならないように引き入れ口を調節する。



田んぼからのおたより2015

第6号 2015年6月13日発行

みなさん、お元気ですか。いよいよ田植えです。今年も雨が少ない状況でしたが、今現在意外に水があります。また、今年は少ない水量を補うための井戸が掘られたため、今後も含めて水の心配がなくなってホッとしています。

栢野小学校の北側の田んぼは5月30日に田植えを終わっていますが、私たちの田んぼには今のところ十分な水があるようです。

これまでも、いづれか水不足はありましたが、ほとんど何とか耐えました。水争いは昔から命がけのものだったようです。「我田引水」という言葉がありますが、他人のことを考えず、自分に都合が良いように考えたり、ものごとを行ったりすることという意味があります。このような言葉が残って使われるほど、他の田んぼのことを考えずに自分の田んぼにだけ水を引くことが実際にあったということでしょう。農業用水のほとんどは、上流から順に取水されるため、下流の農家は不利になります。お米が年貢として納められていたことを考えると、仕方がないことのようにも思えますが、いかがでしょうか。

今週の土曜日には、しろかき、日曜日には田植えを行います。土曜日、日曜日の天気予報は晴れのち曇りです。梅雨の合間の有難い晴れとなりそうです。

今年のくろつけ



一昨年のしろかきと苗取りの様子

6月13日(土)(10:00~15:00)の学習

内容「しろかき」「苗取り」 **場所**「田んぼ」 **服装**「かなり汚れてもいい作業着」
足元「はだしか地下足袋、またはくつした」 **持ち物** 子供の着替え、タオル、昼食、水筒

しろかき

田んぼに水を引き、土と混ぜて、どろどろ状態にし、平らにして田植えの準備をすることを言います。大半に作業は耕耘機でやりますが、平らにならすのは人でなければできない仕事で、けっこう重労働です。

苗取り

苗床から元気に育った苗を取ります。乾いた土の状態ですと方法と、水を引いて土を洗いながらとる方法があります。今回はしろかきと同時なので水を引いて苗を取ります。

苗はもち米とうるち米と混ざらないように、もち米を取ってから、うるちを取ります。

取った苗は、一握りの大きさにして稲藁で結わえ、コンテナに入れて、水路につけておきます。

6月14日(日)(10:00~12:00)の学習

内容「田植え」 **場所**「田んぼ」 **服装**「かなり汚れてもいい作業着」
足元「はだしか地下足袋、またはくつした」 **持ち物** 子供の着替え、タオル、水筒

田植え

お米の苗をしろかきの終わった田んぼに植え付けます。田んぼの南側から植え付けていきます。最初にもち米(全体の約半分)、次にうるち米を植え付けます。

1. 25cm間隔で目印のついた紐を用意して、東西方向に張る。(両端を人が持つ)
2. 苗を植える人は一握りの苗を持って、紐の北側に南を向いて適当な間隔で並びます。
3. 一度に植える苗は2、3本くらいで、大きな苗を植えるようにします。
4. 合図があったら、自分の持ち分に植え付ける。植え付ける場所は、紐の手前側に、目印のあるところ。
5. 自分の分が終わったら、一步下がって、これから植え付けるところを手でならす。
6. 全員が終わったら、紐を25cm北側に移動する。
7. 以上を繰り返していく。

田んぼからのおたより2015

第7号 2015年7月19日発行

みなさん、お元気ですか。

今年も水が十分にあったため、田植え時も最小の水にして出来、その後もすぐに水が入るとい
う理想的な田植えになりました。隣の田んぼや下流の田んぼも7月になってから田植えが行われ
ました。植えた苗は順調に成長していますが、この何年かで一大勢力となったコナギがずいぶん
成長しています。今年は、これを徹底的に取るつもりでいます。

さて、田んぼの生き物たちはどうなっているのでしょうか。いつものようにたくさんの生き
物がいるといいですね。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



田植えの様子



花をつけたコナギ

7月19日(日)(10:00~12:00)の学習

内容「畑の草取り」「草取り、根搔き」「畦草刈り」「生き物観察」

場所「田んぼ」

服装 普通に作業のできる服装でてください。草取り、根搔きは田んぼの様子を見てやります。畑の草取りも行いますので、長袖、長ズボンをお願いします。

持ち物 タオル、軍手、蚊取り線香(携帯用)、飲み物

草取り(一番草)

この時期に行う草取りを一番草といいます。私たちの田んぼは、これまであまり草取りの必要がありませんでしたが、だいぶ目立つようになりました。生き物観察の後、草取りをします。

根搔き

根搔きと言う作業は、稲の根の回りの泥をかき回して空気を送ったり、根を切ることで、根の生育を促進する目的があります。昔は、草取りと根搔きを両方を行う道具がありました。

根搔きの作業も私たちの田んぼでは、やっていません。根搔きはやったほうが良いという意見と、必要がないという意見があり、必ずしもどちらが良いとは言いきれないようです。

生き物観察

田んぼに水が入ると、田んぼには劇的な変化が現れます。その様子を観察します。

田んぼからのおたより2015

第8号 2015年8月21日発行

みなさん、お元気ですか。今年は水が十分にあったので、昨年田植えがされなかった隣の田んぼも田植えが行われました。毎年、同じように田植えをしても、田んぼの生き物をみると、なかなか同じようにならないというのが実感です。例年田植えの後発生するホウネンエビが昨年に続いてほとんど見られないこと、サカマキガイが多いこと、アマガエルもオタマジャクシが大小いること（長い間産卵が行われた）などです。

今年も、昨年に続き、用水路と田んぼの一体化による水管理をしています。水路の堰とセリの畑と田んぼの水面がほぼ一致していて、基本的に水中の生物が行き来できる状態になっています。

田んぼはプランクトンが豊富で魚類、両生類、水生昆虫などにとって、餌に不自由しない場所となっています。昔の田んぼは大体そのようになっていたはずですが。殺虫剤や農薬、化学肥料などが使われるようになって、それらが用水路に流出することが問題となったので、田んぼの水を水路に戻すことをやめてしまいました。佐須の田んぼも用水路の整備を行った時点で田んぼに引き込んだ水は地中に浸透させるか、下水に流すようになっていました。私たちの田んぼは基本的に水路の水を汚すことがないため、一体化を考えていました。

8月6日の田んぼ



柏野夏祭り

「田んぼの学校」では、地域の方々との交流を積極的に行うため、毎年柏野小学校で行われる地域の夏祭り「柏野夏祭り」に模擬店「焼鳥屋」で参加しています。今年の日程は以下の通りです。

8月21日(金)	9:00から12:00	会場設営
8月21日(金)	16:30から20:00	夏祭り
8月22日(土)	16:30から20:00	夏祭り
8月23日(日)	9:00から12:00	片づけ

夏祭りへの参加はボランティアで、自由参加ですが、焼き鳥を焼く体験は大変楽しく、また貴重(他ではできない体験)です。当会の貴重な運営資金を作る場でもあり、是非参加してください。特に金曜日はスタッフが足りません。奮って参加を。夏祭りの子ども向け模擬店もゲーム、綿飴、かき氷など盛りだくさんで、

子どもになかなかの評判です。参加の希望は、

別に送信する連絡メールにて**8月9日まで**に返信ください。参加の時間帯も自由です。

つまみ、お酒の差し入れ大歓迎です。詳しいことは、電話でお尋ねください。

田んぼからのおたより2015

第9号 2015年9月13日発行

みなさん、お元気ですか。昨年の夏は全国的に局地的な豪雨が多く、西日本の日照不足は深刻でしたが、今年は、秋雨前線が居座って日照不足がかなり心配です。

柏野小学校の夏祭りは少し雨が降りましたが、準備した4,700本のうち、金曜日約2,200本、土曜日約2,500本を売上げました。両日完売となりました。お手伝いいただいた皆様に、改めて御礼申し上げます。

さて、5年前スズメ被害が拡大し、収穫が減るという大変な事態になりました。早めの対策が必要と思い、穂が出ると同時に全面を防鳥網で覆うことにしましたが、それでも、網を全然恐れないスズメが隙間から入って食べていることもありました。今年も、その経験を生かして、2重に網を張るなど万全の体制で対応しています。

「スズメ対策」の定番といえば、案山子（かかし）です。大いに工夫してスズメの恐がる案山子を作ってください。光ったり、音が出たりするものがあるといいかな？ ことしも創造性豊かな案山子を期待しています。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



雨模様の9月7日の田んぼです。

9月13日（日）（10：00～13：00）の学習

内容「田んぼの生き物観察、カカシ作り」 場所「田んぼ」
持参するもの 案山子の材料（垂木以外のもの）、大工道具

田んぼの観察

秋雨前線の影響で日照不足が気になります。それでも田んぼの様子も少しずつ変わっています。秋の田んぼをじっくりと観察してみましょう。

カカシ（案山子）作り

芸術の秋とも言います。調布のすずめは少し賢いので、みなさんの創意工夫をおおいに期待しています。芸術性を追求するか、実用本位でいくか家族会議で検討してください。一家族で案山子一体作っていただきます。骨格となる部分の垂木は事務局で用意します。案山子に着せる服や、飾り付けなどの材料や大工道具は持参してください。



6年前のスズメに食べられた様子

田んぼからのおたより2015

第10号 2015年10月10日発行

みなさん、お元気ですか。いよいよ稲刈りです。4月19日に種まきをしてから6ヶ月弱、6月14日に田植えをしてから4ヶ月弱、順調に生育し、雀の被害もほとんどありませんでしたが、9月の長雨でうるち米の3分の1くらいの稲が倒されました。今年は長雨の影響で日照が少なかったこともあり、ちょっと心配な状況で稲刈りを迎えることとなりました。今年は例年より雨が多く、水の心配がありませんでした。隣の田んぼも遅れて3枚の田んぼで田植えがされ、下の田んぼも田植えされました。

10月6日の田んぼ

調布産の、自分たちの新米を食べるのが今から楽しみです。うるち米は「キヌヒカリ」という品種です。有名なコシヒカリの遺伝子を受け継いでいる品種です。もち米はマンゲツモチという品種です。



刈り取った稲ははざかけをします。2週間くらいで稲は乾燥し、脱穀できるようになります。十分に乾燥していないと脱穀した粃が発酵してしまうことがあります。

はざかけ（はさかけともいう）の「はさ（稲架）」は刈り取った稲をかけて干すしくみのことです。日本全国にいろいろな形があります。田んぼの畦に木がある光景を見たことがありますか。

あれは、はさかけのために植えられたはんのき（榛の木）です。（カバノキ科の落葉高木。山野の湿地に自生。幹は直立し、15メートルに達する。）湿地に直立してくれるということは、はさ

の心棒にはもってこいですね。

稲刈りは、刈り取り用のカマを使います。カマの扱いには、十分気をつけてください。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

はざかけされた稲(一昨年)



10月10日（土）（10：00～12：00）の学習

10月11日（日）（10：00～12：00）の学習

内容「ハザ掛け準備、稲刈り」 場所「田んぼ」

服装 長袖、長ズボンの作業着、軍手

ハザ掛け準備

はざは、1段掛けのものを南北に4列田んぼ内に設置します。

1. 最初にはざの足場用の場所（6箇所）の稲刈りを最初に行います。
2. 足場用の垂木3本を1組にして荒縄で組んで3脚にしたものを、合計12組作ります。
3. 1列につき、3組の足場を並べます。
4. 10m前後の竹竿を3本くらい束ねて丈夫な1本の竿にして、足場の上に固定します。
5. 必要に応じて、竿を補強してください。

稲刈り

10日はうるち米、11日はもち米の刈り取りをします。

1. 稲株を左手で握り、右手の鎌で根元から刈ります。
2. 刈り取った稲は1握り分づつを根元をクロスさせて2握りを1組にしておいていきます。
3. クロスしておかれた稲の束を濡らした稲わら3、4本で根元を結わえます。
4. 結わえられた稲束をクロスしたところで左右に振り分けてはさに掛けていきます。
5. はさかけの周りに鳥除けの網を張ります。

田んぼからのおたより2015

第11号 2015年10月25日発行

みなさん、お元気ですか。今年は台風の直撃を受けるようなことがなく、順調に乾燥ができました。2週間も乾燥させると稲わらの水分もなくなりずいぶん軽くなります。

脱穀とは、稲から粃を分離させることです。大昔は千把扱き（せんばこき）というもので脱穀していました。鉄片を櫛の歯のように並べ、それへ稲穂をひっかけて、粃（もみ）をしごき落とします。約300年前の元禄年間（1688-1704）に考案されたようですが、いまでも農家の納屋にこれが残っていることがあり、昭和のはじめ頃までは使っていたのではないかと思います。

当会には、足踏み脱穀機（ミノル式）がありましたが、これは、1910年（明治43年）の発明といわれています。千把扱きに比べ8倍の能力があるそうです。脱穀機で落とした粃と藁くずを分別する機械が唐箕（とうみ）です。唐箕の前は、風を利用して箕に入れた粃と藁くずを振って分別していました。脱穀している時は、ほこりがたくさん出ます。ぼうしとマスクを用意してください。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

ハザ掛け（10月10日）



ハザ掛け（10月15日）

10月25日(日)(10:00~12:00)の学習

内容「脱穀」、場所「田んぼ」

服装「作業着、ぼうし、マスク」

脱穀(だっこく)

稲穂から粃を取ることを脱穀といいます。粃の状態は種と同じで、長期保存する場合は粃の状態で行います。次の年の種にするものは特に種粃といいます。

縄文時代前期(6000年前)には日本で稲作がおこなわれていた遺跡(陸稲米)が見つかっており、弥生時代中期には北海道以外の日本全国で稲作(水稲)がおこなわれるようになったようです。その頃の脱穀はおそらく手か石器でしごき取っていたと思われます。

脱穀は、組合所有の脱穀機を使います。ガソリンエンジンで自走でき、あっという間に脱穀は終わります。

写真は自走式脱穀機



田んぼからのおたより2015

第12号 2015年11月15日発行

みなさん、お元気ですか。稲刈りの後、脱穀機のトラブルで1週間遅れましたが無事終わりました。今週は、籾摺りと精米です。籾摺りは籾の外皮を取り除く作業です。江戸時代には土臼などが使われたようですが、現在はゴムロール式と衝撃式といういずれもゴムを使ったものになっています。昨年、これまでの籾摺り機が壊れてしまったので、籾摺りと精米が両方兼用の中古の籾摺り精米機を購入しました。

籾摺りによって籾殻(外皮)がとれた米を「玄米」といいます。最近では、この「玄米」を食べる人が増えてきました。これは、普通みなさんが食べている「白米」にくらべてビタミンB群、E、リノール酸、ミネラルなどの栄養価の高い成分が多く含まれていることや、便秘に効くということがあるためです。ただ、炊き方がややめんどろです。それでも、最近の炊飯器は優れたものが多いです。玄米も柔らかく炊けます。

「玄米」と「白米」の中間に「胚芽米(はいがまい)」、「発芽玄米」というのがあります。以前から「白米」を10分として、ぬか部分の削り具合によって3分・5分・7分搗きというお米がありました。「胚芽米」は特に重要な「胚芽」(発芽する部分)を残すようにしたものを言うようです。「玄米」の表面には消化されにくい米ぬか層があり、「胚芽」を含めてこれを全部削り取ったものが「白米」になるわけです。「胚芽米」にもその削り加減で3分・5分・7分搗きなどがあります。「胚芽米」は米ぬかに含まれている前記の栄養があるうえ、「白米」と同じ様に炊くことが出来、消化吸収も良いということで、人気があるようです。

「発芽胚芽米」というのを聞いたことがありますか。「胚芽米」を研いだ後、40度くらいのぬるま湯に2時間ほどつけると、胚芽部分が膨らみます。詳しいことはわかりませんが、ぬるま湯につけることで発芽が進むようです。その後、普通に炊くと出来上がります。「胚芽米」と「発芽胚芽米」のどちらがおいしいか、どちらがより栄養価が高いかはよくわかりません。

最近、金芽米というお米が出回るようになりました。胚芽米よりの栄養価を残し、白米のおいしさを持つと言われます。日本のこの飽くなき探究心と技術にはほんとに感心します。皆さんもネットでおいしいお米を探してみて、ぜひ食べて、結果を教えてください。みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

脱穀機による脱穀



11月15日（日）（9：00～10：30）の学習

内容「籾摺り」、「精米」 場所「田んぼ」

籾摺り

脱穀で稲わらから取った稲の実を籾といいます。籾は種の状態、外皮に守られていますので、長期に保存が出来ます。籾から外皮(籾殻)を取り除いて「玄米」にする作業が籾摺りです。この言葉は文字どおり籾を擦りあわせることが語源になっています。籾殻は結構頑丈に出来ていて、つめを立てないと取れません。どうすればこの外皮をうまくとれるのでしょうか？みなさん、考えてみてください。持ってくる事ができる方はすり鉢とゴムの野球ボールをお持ちください。答えは田んぼで。

精米

籾摺りが終わった状態のお米が玄米と呼ばれます。玄米から胚芽米や白米にすることを「精米」といいます。もち米はぬかを全部取り、「白米」にします。うるち米はほぼ玄米にちかい状態を目標に精米します。籾摺り機と精米機は同じ物です。玄米を精米機にかけるだけなので、見学となります。時間内にお越しください。

田んぼからのおたより2015

第13号 2015年11月23日発行

みなさん、お元気ですか。稲刈り、脱穀も終了、粃摺り、精米も終わりました。いよいよ収穫祭です。

さて、私たちの作ったうるち米は関東で比較的多く栽培されている「きぬひかり」という銘柄です。茨城県では奨励品種になっています。コシヒカリの血統を受け継ぎ、炊きあがりの絹のような色つや、そして食味も好評ということです。お米の味は、新米の精米直後がよりおいしく味わえます。また、炊き方によっても味が変わってくるので、おいしく食べるには細心の注意を払ってください。おいしく炊くコツの一つはお米を研いだ後の「浸けおき」です。20度の水温の水で1時間つけると最適です。何かと忙しいおりですが、段取りを付けて、1時間浸けおきをやってみてください。

収穫祭のお知らせ

収穫祭は、作物の収穫を祝って行うお祭りです。毎年11月23日の勤労感謝の日に行ってききましたが、それなりに意味があります。この日は、「新嘗祭（にいなめさい）」が行われている日に当たります。「新嘗祭」は「しんじょうさい」ともいい、「新」は新穀を「嘗」はご馳走を意味します。毎年この日に全国の神社で行われ、新穀を得たことを神さまに感謝する新嘗祭は、五穀の豊穰を祈願した2月17日の祈年祭と相對する関係にあるお祭りです。新嘗祭の起源は古く、『古事記』にも天照大御神が新嘗祭を行ったことが記されています。私たちの会では、収穫をもたらしてくれたすべてのものに感謝の気持ちを表すために収穫祭を行っています。出来るだけたくさんの人とお祝いしたいと思いますので、お友達などお誘い合わせの上、おいで頂きたいと思っております。お祝い事ですので、お酒やおつまみなどの持ち込みは大歓迎です。

つきたてのお餅を食べるときの具（おろし醤油、納豆、きな粉、あんこなど）をいろいろ用意しておりますが、ご自分の田舎で食べる具でこれはぜひというのがありましたら、みなさんにご披露してください。なお、お年寄りの方（70歳以上）、幼児は無料で参加いただけます。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。



11月23日(月)(9:00~15:00)の学習

内容「収穫祭」 場所「田んぼ」

持ち物 お椀、お皿、はし、飲み物、包丁、まな板

会費 大人(中学生以上)300円、子供(小学生)100円(食材費に当てます)

酒代(お酒を飲む人)

その他 23日が雨の場合、11月22日(日)に繰り上げます。

収穫祭

田んぼで取れたもち米(約20Kg)で餅つきを行います。最初の一臼は一年の感謝を込めて、竹内さんに献上します。二臼目からはいろいろな具といっしょに皆さんで味わっていただきます。お餅の他には豚汁、焼き物(干物、焼き芋など)を用意する予定です。参考までに餅つきの簡単な手順を説明します。

餅つきの手順

1. もち米の浸けおき

もち米は前日に研いで、水に浸けておきます。

2. 湯沸かし

蒸し器用の湯とは別にお湯をたくさん沸かします。洗い物や、臼、杵を温めておいたりするために使います。

3. もち米を蒸す

浸けおきしたもち米はざるで水を切った後、蒸し器に1升(1臼分)ずついれて蒸します。お米の芯が残らないように十分に蒸します。

4. こねる

蒸しあがったもち米は手早く臼に入れ、米粒の形がなくなるまで、杵でこねてすりつぶします。これもできるだけ早くやります。

5. 搗く

十分にこねたら、搗き始めます。臼の中の餅は搗きやすいように相方が手で寄せます。搗き手と相方の呼吸が大事です。また、餅が熱いため、手に水を付けますが、つけすぎると水っぽくなるので、注意が必要です。

搗いた杵がもちから反発力を感じるようになれば搗き上がりです。

6. 粉にまぶす

搗きあがった餅はそのままでは何にでもくっつくので、のし台で米粉や片栗粉でまぶします。

追伸

今年も、とれたお米を希望する方に1Kg400円で販売します。23日に一家族あたりうるち米(白米)1Kg販売します。

田んぼからのおたより2015

第14号 2015年12月6日発行

みなさん、お元気ですか。今回はカニ山でキャンプをします。カニ山は、田んぼの用水が湧き出ている谷の雑木林で、昔、たくさんの湧き水があって、沢ガニがたくさんいたのでこの名前が付いたようです。コナラ、クヌギといった武蔵野の雑木林を今も残しているところです。雑木林は、堆肥にする落ち葉や薪にするシバ、炭や薪にする材木を取るために、人が入って管理していた自然（二次自然ともいう）の森です。そのため、切り株からまた枝をのぼして大きくなる（萌芽更新という）コナラやクヌギの仲間が残され、木の背丈も10m位に維持されていました。ちょうど薪にしたり、炭焼きにするのにいい太さで切られるためにいつもそのくらいになるわけです。現在、都会にある自然を残すために、雑木林が残されることがありますが、その多くは、人間が手を入れないため、コナラ、クヌギなどが大きくなりすぎて、昔の「武蔵野の雑木林」の面影を残してはいません。カニ山も残念ながら、木が大きくなり過ぎ、人もたくさんはいるので、地面が固くなっています。本来の雑木林は、その地面にたくさんの水を含んで貯める保水機能も持っていて、湧き水が枯れない要因にもなっています。

右の写真は収穫祭



炭焼きキャンプの出欠連絡

準備の都合上、事前に出欠の連絡をお願い致します。[11月30日夜までにメール](#)でお名前、大人の人数、子どもの人数、幼児の人数を返信して下さい。

みなさんのご意見、お便りをお待ちしています。

12月6日(日) 9:00~16:00)の学習

内容 炭焼きキャンプ 場所 カニ山

持ち物 食器(はし、皿、茶碗、お椀、コップ)、調理器(包丁)、着替え、おやつ(飲み物はこちらで用意します)、空き缶(鉄板でできた茶筒やせんべいの箱などで、しっかりふたができるもの。炭焼きに使います)、炭材(炭にしたいもの。マツボックリ、ドングリ、栗、割り箸、花など)、差し入れ(自由です。おやつや酒の肴など歓迎)、お米(幼児を除く参加者一人1合)
(はチェックのためにお使いください。)

参加費 大人 700円、小学生以上の子ども 200円、幼児(無料)

その他 駐車場がないので、車での参加はご遠慮下さい。雨天の場合は中止(連絡網にて通知)とします。

スケジュール

9:00	集合	カニ山キャンプ場(かまどがあるところ)。 時間厳守
9:30	授業	火起こし(たき火の火付けの学習)、焼き芋
11:00	昼食準備	(父母)
12:00	昼食、懇談	カレー、手羽焼き他の予定(炭で焼きます)
13:00	授業	炭焼き
15:30	片付け	
16:00	解散	

田んぼからのおたより2015

第15号 2015年12月13日発行

みなさん、お元気ですか。関東の平野部や調布でも紅葉が見られるようになりました。早いものはすでに葉を散らしています。2011年以降、放射能の影響を考慮して落ち葉拾いを中止してきましたが、昨年から再開することとしました。

落ち葉などによる堆肥作りは農業に一番大切な「土づくり」にかかせない作業の一つです。「土づくり」のなかで一つの柱となるのが栄養分でしょう。肥えた土地、痩せた土地という時、栄養分が有るか無いかを示しています。これまで、24年間、無農薬、有機栽培を目標に、毎年田んぼに堆肥を入れてきました。堆肥の原料は、カニ山の落ち葉、収穫したお米を精米した時に取れる米ぬかなどです。堆肥を作る場所は竹内さんの堆肥置き場を共同で使わせていただいています。

落ち葉、米ぬかは、混ぜ合わせて寝かせます。寝かせた落ち葉は菌類などの働きにより発酵します。発酵が順調に進むように適当に天地返し作業をします。完全な有機栽培にはこのような「土づくり」が何より大切です。農業の基本は土づくりといってもいいくらいです。カニ山は、田んぼの用水が湧き出ている谷の雑木林で、昔、たくさんの湧き水があって、沢ガニがたくさんいたのでこの名前が付いたようです。コナラ、クヌギといった武蔵野の雑木林を今も残しているところです。雑木林は、堆肥にする落ち葉や薪にするシバ、炭や薪にする材木を取るために、人が入って管理していた自然（二次自然ともいう）の森です。そのため、切り株からまた枝をのぼして大きくなる（萌芽更新という）コナラやクヌギの仲間が残され、木の背丈も10m位に維持されていました。ちょうど薪にしたり、炭焼きにするのにいい太さで切られるためにいつもそのくらいになるわけです。現在、都会にある自然を残すために、雑木林が残されることがありますが、その多くは、人間が手を入れないため、コナラ、クヌギなどが大きくなりすぎて、昔の「武蔵野の雑木林」の面影を残してはいません。カニ山も残念ながら、木が大きくなり過ぎ、人もたくさん



はいるので、地面が固くなっています。本来の雑木林は、その地面にたくさんの水を含んで貯める保水機能も持っていて、湧き水が枯れない要因にもなっています。

炭焼きキャンプの様子

12月13日(日) 10:00～12:00) の学習

内容 落ち葉拾い

場所 カニ山

持ち物 軍手、長靴

12月13日(日) 12:00～13:00

昼食 汁物を作ります。

場所 カニ山キャンプ場

持ち物 昼食、お椀、カップ

12月13日(日) 13:00～15:00) の学習

内容 しめ縄づくり (別刷りのチラシをご覧ください)

場所 カニ山キャンプ場

持ち物 しめ縄につけるかざりなど

田んぼからのおたより2015

第16号 2016年1月10日発行

新年あけましておめでとうございます。田んぼの学校の授業もあと3回となりました。もう少しがんばりましょう。東北大震災と福島第一原発の事故から5年近くたちました。地震や津波は自然災害ですが、今回は数百年に一度という確率のものでした。復興はとても順調に進んでいるとは思えません。

今回の授業は佐須地域の行事「どんど焼き」体験と「土作り」としての落ち葉堆肥の天地返しです。

「どんど焼き」は、お正月の松飾りや門松、書初めなどを持ち寄り、集めて燃やします。その火にあたることで、一年間の無病息災がかなうといわれています。また、その熾火（おきび）でお餅や団子を焼いて食べることで風邪をひかないなどといわれています。いずれにしても昔から行われてきているこのような行事の謂われなどは多分に神様（昔からいたる所に神様が宿っていた）に対する感謝と願いが込められたものであることに違いはないように思われます。今回の授業では、実際にその行事を見学し、あらためてそのような行事が地域で長年にわたり続けられてきたのかということを考えていただければと思います。

右と下の写真はどんど焼き



野川で遊ぶまちづくりの会

もうひとつの授業が「土作り」です。昨年までは、東京都が落ち葉による堆肥づくりを行わないように指導していることなど、放射能の汚染問題があるため、落ち葉集めを中止しました。昨年もカニ山での落ち葉集めは中止になりましたが、事情があつて堆肥集積地には新しい落ち葉が集積されています。

作物を作る上で、土作りは大変重要な要素です。特に落ち葉、家畜の排泄物などからつくられる有機堆肥は農薬や化学肥料を使用しない有機農法には欠かせません。今後も落ち葉の堆肥が作れないとなると有機農法にとって、たいへんな打撃となります。新しい落ち葉の安全性を確認したうえで、堆肥づくりができるようになることを願わざる負えません。



左の写真は3 mほども積まれた落ち葉
(6年前)

堆肥づくり

1月10日(日)(10:00~12:00)の学習

内容 堆肥づくり 場所「田んぼ」
服装など 作業ができる服装、長靴

堆肥集積地に積まれている落ち葉の天地返しをします。

どんど焼き(佐須地域の行事参加)

1月16日(土)(11:00~12:00)の学習

内容「どんど焼き」体験 場所「田んぼ近く 祇園寺前」
持ち物 箸と器(搗きたてのおもちが振る舞われます)、お正月飾り

かつて、農村の集落ではどこでも行われていたと思われるお正月の行事としてどんど焼き(地域によって呼び方が異なる)があります。佐須地域でも一時途絶えていたものを地域の青年会が復活して20年をこえる事業になっています。

田んぼからのおたより2015

第17号 2016年2月7日発行

皆さんお元気ですか？ 2月の授業では、縄織い（稲わらで縄を作ること）を学習します。冬の間お米作りをやっている農家では田んぼでの作業がないかわりに家の中で行う作業がありました。その代表的なものが縄織いです。インターネットで探してみると地域特産物マイスター協議会・財団法人 日本特産農産物協会が発行する「地域特産物マイスター通信」という広報誌にこんな文章がありました。「百姓仕事にとって縄織いは基本作業だった。結ぶにも、担うにも、運ぶにも、入れるにも、敷くにも、履くにも、そして保温にも、皆、縄が不可欠だ。目的に沿った稲藁の選択、湿り具合と打ち加減、縄織いのワザとコツ、何処の軒先に立っても藁を打つ槌音とショリショリと繰り返されるリズムが聞こえた。右の掌と左の掌の巧妙なワザが纏う1本の藁縄には、時間（歴史）と空間（地域社会）が織り成す文化があった。」

2000年を超えるお米作りの伝統のなかに、農作業や普段の生活に欠かせない様々なものを提供したのが稲藁で作る縄であったり、草履であったり、米俵などでありました。お米作りを学んでいて一番驚いたことは、収穫されたお米だけでなく、粃殻、米ぬか、稲藁などその課程で生まれる副産物が一つも無駄になっていないことです。ここではいちいち書きませんが、ぜひ皆さんインターネットなどで探してどんなものがあるか調べてみてください。調べたら、是非皆さんに教えてください。

2月7日（日）（10:00～12:00）の学習

内容「堆肥天地返し」 場所：堆肥堆積所

履物は長靴をお勧めします。

午後の授業に出席する方は、お弁当をお持ちください。

雨の場合中止。

2月7日（日）（13:00～15:00）の学習

内容「縄織い」 場所：佐須ふれあいの家（佐須児童館奥）

室内なので雨でもやります。藁草履作りに挑戦します。

縄織い

稲刈りをし、脱穀した稲藁は、実は大変な貴重品になっています。皆さんは実際に稲刈りをしているので、その大変さがわかると思いますが、農家で作っている田んぼの広さは、私たちの田んぼ（3畝）の最低でも10倍から大きいところはおそらく数百倍で、とても手では刈り取りできる広さではありません。コンバインという機械で刈り取りしますが、稲藁がそのままではかさばるため、同時に粉々にしてしまいます。だから、稲藁もありません。そのため、稲藁は大変貴重なものになっています。

さて、縄織いですが、いわゆる手仕事です。上手に、早く縄を作ることはなかなか大変です。でも、自分で作ることに大きな意味があります。そんなことが体験できればいいと思います。みなさん、お楽しみに。

田んぼからのおたより2015

第18号 2016年3月6日発行

私たちが調布市の佐須でお米づくりを始めて24年が経ちました。お米づくりを始めて、いろいろなことを学ぶことができ、人が生きるといことがどうゆうことなのかをあらためて考える機会となりました。ほとんどの生き物は、命を授かって、体外から生きるために必要なものを取り込んで成長し、それぞれの寿命を迎えて、分解されて自然に還ります。人もサルから進化しながら、何万年という時を経て、今の自分たちがいます。お米も、約1万年前の中国長江流域の湖南省あたりを起源として、3千年前ころには日本に伝来し、急速に広まったとされています。弥生時代と重なる時代で、かつては弥生式土器の発見で弥生時代とされていたものが、水田による稲作の農耕の広まりが弥生時代というようになったようです。今年私たちが作った稲も一万年前に始まった稲にそのルーツがあり、つながっていることに生き物の不思議を感じないわけにはいきません。植物である稲も、種が発芽の条件が満たされると、芽を出し、根を張り、葉を広げ、成長します。稲は、根から様々なものを取り込み、葉に太陽光を受けて、成長して、花をつけ、雄しべは花粉を散らし、雌しべが花粉を受粉して米粒となる次世代に命をつなぐ種ができます。今のお米は、一粒の種から500粒くらい収穫できるようです。

あらためて思うことは、地球にとって太陽が太古のころから人間のみならずすべての生き物の“元”になっているということです。日本には四季があり、それぞれの地域で太陽の恵みを最大限に利用して作物をつくり、営々と日々を紡いできたことを再認識するこの一年ではなかったでしょうか。

地球規模で起こっているさまざまな環境問題を解決するためには、グローバルな視点とローカルな視点での取り組みが必要です。「田んぼの学校」では、そのローカルな取り組みとして身近な環境である「田んぼ」のある環境を守ることを重要な目的にしています。

「田んぼ」には環境問題を解決するヒントがたくさんあります。「田んぼ」の米づくりをとおしてそのいくつかでも気がついていただければと考えています。みなさん、この一年でいくつくらい気がついていきますか？

宿題

今回の学習には、宿題があります。忘れずに持ってきてください。

宿題は、この12ヶ月間に田んぼで学んだことの感想文（長さは自由です。）です。この一年、参加した授業をもう一度、家族で振り返ってみてください。おとうさんも、おかあさんも、こどもたちもみんな書いてください。（書けない子どもは、おとうさん、おかあさんが代筆してください。）卒業式に読み上げていただきます。

卒業式欠席の場合も3月3日までに宿題は提出（メールなど）してください。

出欠席の確認

卒業式の出欠席を3月3日(木)までに尾辻までメールして下さい。

3月6日(日)(13:00~16:00)の学習

内容「卒業式」 場所「佐須ふれあいの家」(佐須児童館)

持ち物 お昼のおかず(参加される家族の人数分より少し多めにお持ちください。)

飲み物(御茶など) 取り皿(一人2枚)、はし、カップ

(田んぼで取れたお米でお赤飯、おにぎりを用意します。ジュースなども事務局で用意します。)

出欠確認のメールをお送りしますので、そのメールに返信してください。3月3日まで必着。

5. 参加者名簿

親子コース	基礎コース	スタッフ
伊賀	入山 敏之	今江 知延
岩崎	大内 央	忍足 和彦
植木	小宮山 嘉朗	尾辻 隆子
上田	堀内 拓馬	尾辻 義和
内田	湯本 洋平	鬼弦 千枝子
金入	渡辺 萌	林 保
窪田		
口分田		
小林		
志方		
鈴木		
高木		
高橋		
滝川		
武田		
田原		
玉林		
時安		
中川		
西山		
沼田		
野田		
林		
原田		
平井		
藤井		
藤井		
増川		
棟方		
山岸		
吉田		

6. 参加者感想文集

窪田 知一郎

今年は、3年目となります。

防水性に優れた高性能の長靴も準備し、気合いを入れて臨んだのですが、結果として伸び悩みを感じる1年でした。

まず、長男が野球を始め、土日が練習になってしまいました。次に、一番下の子が動き回るようになり、目が離せなくなってきました。

家族で田んぼに来ることが難しくなりつつあるのに加え、田んぼに来てもなかなか作業に集中できない歯がゆさのようなものを感じるが増えて来ました。

結果として、3年経っても全ての作業に参加できていない状況です。去年、及び一昨年も非常に楽しみにしていたながら参加できず心残りだった稲刈りは今年も欠席でした。非常に残念です。この片想いのヒリヒリした気持ちにどう決着をつけるのかが課題です。

一方で、少しずつでもお米作りに携わる機会は活用しようと思い、今年は知人に誘われ、長野県の佐久穂という町で地元の農家の方と田植えと稲刈りをしてきました。

青空のもと、田植えに集中し、時折痛くなった腰を伸ばし、漬物と冷えた麦茶で休憩し、そばでは1時間に一本の2両編成の電車が通っていく。

こんな時間こそが幸せな気がします。

私が好きなテレビ番組の『孤独のグルメ』のイントロを借りるならば、

「時間や社会に囚われず、幸福に田んぼの作業に没頭するとき、つかの間、彼は自分勝手になり、自由になる。誰にも邪魔されず、気を遣わず田んぼに向き合うという孤高の行為。この行為こそが、現代人に平等に与えられた最高の癒し、と言えるのである。」

といった感じでしょうか。

最後になりますが、尾辻さん及びスタッフの方には今年も大変お世話になりました。毎週の各種企画や準備で大変だったと思います。ありがとうございました。

また一緒に卒業する皆さんにもこの場を借りて御礼申し上げます。

感謝状

2016年3月6日 窪田陽子

田んぼの学校殿、尾辻ご夫妻、そして皆さま

私は田んぼの学校に参加して、特に次の3点においてみな様に深く感謝の気持ちを伝えたいと思います。

- ① 毎回、この佐須の田んぼに来て、心が洗われました。上に広がる大きな青い空・爽やかなそよ風、生き生き働く大人たち、触れるとほんのり暖かい土。それは小学校まで住んでいた静岡県焼津市の実家の環境にとっても似ています。田んぼの学校に行くことは自分の原風景を思い出させてくれるものだったかもしれません。
- ② 子どもたちに、自然や地域社会体験をプレゼントしてくれました。大きな青い空、そよ風、稲のにおい、つくたてのお餅、豚汁のあったかさ、分けてくれた時の大人の笑顔、一生懸命農作業をする大人たちの姿、そんなすべてが、将来子供が大人になったときの大切な記憶として、残っていくと思いますし、そうであってほしいと思います。
- ③ 夫が大きく変わったことです。都会育ちで平日深夜まで仕事をしている夫はそれまでは週末となるとあまり外に出ることもなく家でゴロゴロ・・・もとい、次の仕事のために家の中で英気を養っていたのですが、3年前田んぼの学校に参加してから、週末外に出て、リヤカーを引いたり田植えで泥んこになったり、妊娠・出産中は自分で子供上の子を連れて田んぼの学校に参加したり、田んぼの学校以外の週末も公園に頻繁に連れ出してくれたり、夫が変わることで私たち家族の生活も変わっていったと思います。

尾辻さん、そして事務局の方々、参加された皆さん、一年間ありがとうございました。

田んぼ

高橋 均

今日はだれがくるだろうか……。と毎回楽しみです。

大人同士は挨拶はもちろんのこと子どもたちの元気な声聞くだけでも楽しいなと思います。

さて、田んぼでの作業が楽しいかといば、非日常で結構たのしいものです。

また、たんぼで知り合ったかたと共同作業することも楽しく思います。

今やなかなか味わえない「どろんこぬるぬる」。そこに生息する「生き物によろよろ」さがし。そして今ではなかなかできなくなった収穫祭やキャンプの「火付けぼうぼう」。

特に田植えが終わった田んぼには大雨がふれば、大丈夫かなあと見に行き、秋に大風が吹けば、倒れていないだろうなと見に行き、暖かくなれば、なにか生き物がでてきていないかなと見に行き、花の季節になると何がさいているかなと見に行き、結局、一年中見に行っています。農家の気分です。

「^た田んぼの^{がっこう}学校」^{そつぎょうしき}卒業式^むを迎えて…

^{うえき}植木 ^{しゅういち}修一

^{しゅつぎ}出席
^{たいちふりょう}体調不良につき、「卒業式」に~~出席~~できず、^{ごんわん}残念です。

^{しかん}時間^たが経つのは^{はや}早いもので、もう「卒業式」なのですね。

^{なつ}夏^{ひざし}の日射しを^{あび}浴びながら、^{かぞく}家族揃って^{どろ}泥だらけになっていたのが^{なつ}懐かしい…^{わらい}笑。

^わ我が家^やは^{ちゅうちゅう}途中からの^{さんか}参加でしたが、^{みな}皆さんに^{おそ}教わりながら^{たの}楽しくいろいろなことを^{まな}学びました。

^{こじん}個人^{かぞく}や^{まわ}家族だけでは回っていかない、^{きんじ}ご近所との^{つな}繋がり^{かんけい}関係の^{じゅうじゅうせい}重要性も^か改めて^{かん}感じることが^{でき}出来ました。

^{まいにち}毎日^{なにげ}何気なく^た食べている^{しょくじ}食物ですが、^{できあ}出来上がるまでの^{らうりく}労力や^{むづ}難しさ、そしていろいろな^{その}ものを^{むだ}無駄に^{せんじん}しない^{ちん}先人の^{ちん}知恵も^{かぞく}家族で^し知ることが^{でき}出来て^よ良かった^{おぼ}と思います。

^{ちゅうちゅう}途中参加・^{しゅつぎ}出席不足、そして^{でき}出来の^{わる}悪さと^{あか}赤点^{ようそ}要素一杯で^{はつ}落第^{あちが}間違いない、^いと言ったところ
^{わらい}ですが(笑)皆さんとご一緒^{いっしょ}出来て^い有意義な^{がくしゅう}学習体験^{たいけん}でした。

^{えん}ご縁^いがありましたら、^{じかい}また次回も^{ぼしゅう}募集^ごがありましたら、^ごぜひ^{いっしょ}御一緒^{いっしょ}させてください。
^{ねが}よろしく^{ねが}お願いいたします。

^{いちねんかん}この1年間、^{ほんとう}いろいろと^{ほんとう}本当にありがとうございました。

私はおまじかして、たのしかおたてです。

用んぼの学校に

とくにたのしか、たのはたうえとしるかほです。

理由はとろであそべたからです。

心にのこっているのはカニ山のバーベキュー？です。

お米作りをしてみても、思、たのは、もうすいるとかであそんで

いく、あまり、たいへんでは、なかつたです。

こみやまさんと、パンや、ピザを作、たのも、たのしかた。
やってみて、よか、たてです。(用んぼの学校を)

植木 灯

【田んぼの学校を振り返り】

田んぼの学校の社会人枠で入学しました大内です。
ちょうど1年前に堀内氏に誘われ、この卒業式に参加し、お父さん、お母さん、こどもたちの感想文を聞いて感動したのをよく覚えています。

「子どもたちを自然に触れさせたい」という気持ちは東京に住んでいると多くの親が思うことなのでしょう。

小さい子供のいる友人に田んぼの学校の話をする、ほとんどの方が参加してみたいと関心を持ってくれます。

一年を振り返ると、途中参加できないことをありましたが、米作りの一連の作業ができたことはとても貴重な体験でした。

「くろつけ」「代掻き」なんて言葉は知らなかったもんなあ。

また、環境問題について意識を向けることができた一年でもありました。

特に食については大きく意識が変わりました。先日、私が企画している講座では「ミネラル不足」「新型栄養失調」というキーワードがありました。これを避けるには素材からの手作りの料理が一番ということなのだそうです。

そういったことに目を向けられる意識の変化が生活を少しずつ変えていきます。田んぼの学校を通して、私自身はこのようなことを学びました。

最後に、尾辻様、奥様、スタッフの方、そしてご学友の皆様に御礼を申し上げます。ありがとうございました。

2016年3月6日

大内 央

いぬがりが楽しかった。理由はわかったことになって、
ふかめた。たからで。切ったときに生物がいたの。生物の観察もて、きました。

中川 皓

田んぼの学校の授業に参加して

田原 晋介（父）

営業職の私にとって、『休みの日は何をしていますか？』はよく出る話題の一つです。迷わず、『田んぼの学校で米作りに参加しています。』と答える私。あまり授業に参加できていないくせに…。

長男が土日にサッカーを始めてから、家族もサッカー中心の生活になってしまっているのですが、まだ虫たちと友達になれていませんので、ご迷惑でなければ来年も参加したいと思っております。よろしくお願い致します。

田原 早希子（母）

田んぼの学校のことを知ったのは5年前。見学希望の連絡をした時はすべての授業が終わった後だった為、卒業式を見学させていただく事となりました。しかし、あの東日本大震災が起き、その年の卒業式が急遽中止となってしまいました。

その後、次年度の入学式を見学する事となり、同じ年頃の子を持つ友人を誘って一緒に参加する予定でした。すると、当日その友人から「私、やっぱりやめる。放射能が怖いから。」と言われたのです。東京の水も汚染されているから、その水に足を浸けるのが怖い、と言うのです。

私はそのような事を考えもしなかった為、正直驚きました。それと同時に、これから放射能問題はどうなってしまうのだろうという気持ちになったことを覚えています。

田んぼの授業に参加し、みんなでお米作りをしていると、昔のように物のない時代に戻った方が平和に暮らせるのではないかと思ってしまう。自然に逆らわず、日が昇ったら活動し、日が沈んだら休む。このような生活に戻れば、極力電気を使わずに生活できる気がします。

東日本大震災の時に感じた思いを忘れず、子ども達の為に、これからも環境問題に関心を持って日々を過ごしていきたいと思えます。

田原 大悟（小2）

土日はサッカーがあるので、あまり田んぼへ行けなくなってしまったけれど、もう泥は苦手ではなくなりました。今年は、泥団子を作って遊びました。新年会の時、みんなと田んぼで遊んだことも楽しかったです。

田原 鈴（4才）

生まれる前から田んぼへ通っているだけあって、田んぼが大好きなようです。休みになると、「今日は田んぼ？」と聞き、しばらく授業がないと、「最近、田んぼ行ってないね。」「尾辻さんに会いたいなあ。」などと言うのでびっくりします。来年も通いたいです。（代筆：母）

2016年3月6日

湯本洋平

田んぼの学校卒業式

この一年間、田んぼの学校に参加してみて、自分の身体を動かして学ぶことの大切さを改めて感じました。僕の実家は田んぼに囲まれているので、小さい頃からおじいちゃんやお父さんが米作りをするのを見ていましたし、田植えや稲刈りを手伝うこともありました。カエルの鳴き声も田んぼで遊ぶことも当たり前だったので、田んぼはとても身近な存在でした。

ですがその頃は、家族がやっているから自分も仕方なく手伝うという感じで、田んぼのことやお米のことをちゃんと理解しようなんて考えもしませんでした。なので、どうすればお米が育つか細かいところまでわからないし、人に説明することもできませんでした。僕にとって、田んぼやお米作りは、とても身近な存在でありながら、とても遠い存在でした。

そんな状況だったので、この一年間田んぼの学校に参加したことで、いかに自分が田んぼやお米作りについて知ったつもりになっていたか気付かされました。実家でお米作りをしていた時は、お米は苗を買って育てていたのも、お米が種もみから育つところなんて見たことがなかったですし、田んぼのあぜは元からあるものだと思っていたので、くろつけがあんなに大変で面白いとは知りませんでした。「自分の身体を動かして、自分の目で見て経験することは、本を読んだりインターネットで調べたりするのでは知ることができないことを学べる」と言いますが、それは本当のことなんだなあと思いました。

そしてなにより、田んぼの学校ではいろんな人に会うことができ本当に楽しいです。小さい子供が一生懸命作業してる姿はとてもかわいいですし、作業の後に田んぼで悪い大人たちと一緒にお酒を飲むのも最高に気持ち良いです。同世代の人が参加してないのが少しさみしいので、もっといろんな人にこの学校のこと、調布でもお米作りができることを知ってもらいたいし、一緒に田んぼで汗を流したいです。

最後に、個人的な話になりますが、田んぼの学校のおかげで仕事を見つけることができました。本当に尾辻さんには感謝してもしきれません。新年度も田んぼの学校の2年生として参加するので、ぜひこき使ってくださいね。

一年間、ありがとうございました。今後どうぞよろしくお願いします。

「田んぼの学校」に家族で学んで 5 年目になりました。今年は十分参加することが出来ませんでした。それでも私たちの生活の中に田んぼの学校で学ばせていただいたことが生きてきたように思います。

一つは物の価値を知り、無駄にせず、生かして大切にすることです。特に注連縄作りや縄緬いの授業の時に、物を大切にすることを学んで来ました。しかし、技術的には何年やっても尾辻さんのようにきれいに縄を緬うことは難しいです。でも、コメの副産物であるワラを使って、たとえ不格好であっても、手作りの注連縄をお正月に玄関に飾ることは、「もったいない」ということを大切にしてきた日本の素晴らしい文化でもあると思います。田んぼの学校に参加出来なかった年は、今では貴重なワラだけを尾辻さんにいただいて、注連縄を作ったりもしました。

また米を研いだ後の研ぎ汁を庭の花にかけたりもしています。米ぬかは少ないのですが、水道に流してしまうよりは多少でも米の研ぎ汁の中にはビタミンB1、ビタミンB6、ビタミンE、鉄、マグネシウム、マンガンなどのミネラルが含まれているそうです。田んぼの学校で取れたおいしい安全なお米を五分づきや七分づきにしたものであれば、より栄養価は高いのかなと思っています。

二つ目は自然や人と触れ合うことの大切さを学ぶことが出来ました。娘は生き物や植物に関心を持つようになってきました。1, 2年生の頃は学校帰りに落ち葉や花や何でも自宅内に「おみやげ!」「これあげる!」と言って持ち帰り、ダンゴムシやクモなど普通の女の子が嫌がるような小さな生き物にも興味を示していました。

田んぼの学校での生き物観察、用水路清掃でも、空き缶の中にいるアメリカザリガニを捕まえる中で、自然と生き物に触れ合い、水をきれいにすることの大切さを感じてくれたのではないかと思います。今年は石森さんに春の七草など、食べられる雑草?の説明もしていただき、とても勉強になりました。

妻は今年、園芸療法の勉強を 1 年間通してしてきました。それはやはり田んぼの学校で学ばせていただいたことが大きいのかなと思っています。

自然を守りながら、地域の人との関わりも大切にしていけることが必要なのかなと思っています。イベントはやはり楽しくていいですね。田植え、夏祭り（焼き鳥を焼くのも楽しかったです!）、稲刈り、収穫祭、今年はサツマイモ掘りも家族で楽しませていただきました。

お正月の手作りの注連縄やお飾りはどんど焼きに持って行って、燃やしてもらいました。貴重な地域の伝統行事も続けていくことは大変なことだと思います。

一年を通じては、家族 3 人揃って参加出来ない時が多くなりましたが、楽しんで学ぶことが出来ました。尾辻さん、奥様、スタッフの皆さま、どうもありがとうございました。来年度もよろしくお願い致します。

今年度で、田んぼの学校も5年目になります。今年度私は、田植えを三か所の場所で行いました。一か所目は、田んぼの学校で、二か所目は、職場でお年寄りの方々と一緒に、三か所目は、今年の4月より通い始めた園芸療法の学校です。

職場は、同僚が千葉の米農家が田植えを終わり余った稲苗のブロックが田んぼの脇に置かれている物を頂き、郵送してもらいバケツや発泡スチロールの箱で多くのお年寄りの皆さんと一緒に行いました。園芸療法では、JAグループが行っているバケツ稲づくりで行いました。また、娘も学校でバケツ稲を行い、夏休みからは、自宅の庭でバケツ稲を育てました。

園芸療法とは、植物や植物のある環境、植物を育てる園芸作業、その植物を使って料理をしたり、食べたり、クラフトをすることで人の五感を刺激します。その人に与える影響や効果、作業をすることで自信、自尊心、達成感、満足感、役割を与えます。それらをリハビリテーション、医療、福祉、保健などの活動で利用するのが園芸療法です。

田んぼでの田植えは、足も手も田んぼの中に入り、直接土に触れることから得る感覚が何にも代えがたいものであり、その土の感覚が癒しとなり、私を田んぼだけでなく園芸へと向かわせ、家庭でのグリーンカーテンから、出会いもあり5年目で園芸療法に結びついたのだと思います。

職場での、稲は、土の配合を考え、日当たりの良いところで育て、穂がつくや否やスズメがやってきて食べ始めたので、一昨年より細かい網を支柱を使って被せました。しかし、網の長さが足りず、穂と網の間が近くなり、かえって網が足場になり、またすずめの餌となってしまいました。そのことを夫に話すと、尾辻さんも田んぼの初めのころは何度も試行錯誤されたことを話してくれ、何でも初めは試行錯誤、失敗と成功を重ねながら諦めずに工夫して行うことが大切だと思いました。

また、稲は、余すことなく利用され、捨てるものがないということ。今年は、注連縄作りに参加できず、久しぶりに注連縄を買おうと思っていたとろに、娘が学校で作った稲わらで、作ってきてくれた注連縄を飾りました。5年という年月と子供の成長を実感しました。

中々、田んぼの学校には参加出来ませんが、私達家族の中で、田んぼの学校での経験が目に見えないところで蓄積され、変化し今に繋がっていることを振り返りつつ、皆さんとご一緒に活動できること、尾辻ご夫妻、亡くなられた林さん皆様に感謝いたします。ありがとうございました。

田んぼの学校で^{学んだ}~~学んだ~~こと

28年3月6日 藤井悠奈

私は田んぼの学校を始めて5年になります。
なかなか出られない日が多いのですが、この5年間、
ずっとやっていて、今までの中で一番役に立った事
があります。それは、学校の総合の授業でやったバケツ
稲です。5年生全員でやったのですが、多くの人が初
心者なのでうまく育たなくて枯れてしまったり、稲穂
が全然ついていかなかったりして、苦戦している人
がいっぱいいました。けれど、私はこの田んぼの学校
で学んだことを最大限活かし、土と水と光を特に気を
付けて育てたら、班で一番立派な稲ができて、班の子
達に「どうしたらそんなにすごい稲ができるの？」
と聞かれ、とても嬉しかったです。私がこんなにも上
手く育てることができたのは、田んぼの学校で学んだ
ことのおかげだと思っています。~~田んぼ~~一年間、あり
がとうございました。

「田んぼの学校」2年目に思うこと

まずはこの1年間、いろんな準備や進行などで尾辻さんご夫妻には大変お世話になったことに感謝いたします。

ありがとうございました。



おかげさまで、今年度も無事に「美味しいお米」を収穫することができました。

私は入学して今年で2年目になります。

24年目のこの「田んぼの学校」の歴史からしてみればまだまだ、生まれたての赤ん坊のようなものです。

それでも、今年度は出席日数も少し増え、昨年参加できなかった授業にも参加することができました。

特に今年度は、収穫のあとの稲藁に触れる機会がたくさんありました。

しめ縄作りに縄ないは、稲作が始まって以来人間が産み出した知恵がこうして今でも受け継がれているんだということを感じながらの貴重な体験となりました。

特にしめ縄は、毎年スーパーで購入していましたが、

今年は自分で編んだものを玄関に飾ることができました。

ややイビツではありましたが素朴な味わいを感じることができました。

このような体験ができる「田んぼの学校」は、これからも長く続いて欲しいし、続けていかなければいけないという使命のようなものも同時に感じました。

田んぼも自然も一旦なくなってしまうと、元に戻ることはないでしょう。

駅周辺を見ていると、開発は黙っていてもあっという間に進んでいきます。

佐須地域やかに山、野川のあの環境がなくなってしまうたら、と考えると

大切なものは失ってはいけないんだと、つくづく感じました。

この学校が永く続いているということは、その存在の大切さをみんなが感じているからだと思います。

そのことを伝えつづけるためにも、来年度は三年生に進級させていただきたいと思います。

1年間ありがとうございました。

2016.3.6

「田んぼの学校」2年

入山敏之



「^た田んぼの^り学校」に参加して

2013年の初めに調布に引っ越してきて以来、ネットで見た「野川で遊ぶ町づくりの会」のことはずっと気になっていたのですが、去年5月のアースデイのイベントでたまたまブースを見つけて、尾辻さんはじめ、メンバーの皆さんにお会いすることができました。田んぼの場所をお聞きしたら、我が家からも自転車で行ける！ということで、黒つけから参加して、早速、ムスメは泥んこまみれの洗礼を受けました。あれからまだ1年足らずとは思えないほど、ここ調布でできるとは思っていなかった、楽しく心に残る経験をたくさんさせていただきました。

これまでも、お米を作っている農家の方のお話を聞く機会がありましたし、生協で安全なお米を選んだり、生産者の方のご苦勞が書かれたものを読んだり、ある程度知っていたつもりだったのですが、初めて自分で米づくりに関わらせていただくことで、プロの農家がどんなに凄い技を持っているかを、改めて実感しました。特に農薬や除草剤を使わずに質の高い米を作るのがどれほどに大変なことか。粒の揃った稲穂、美しく並んだはさがけ、ぴかぴかの炊きたてごはん、自分で実際に経験してみたことで、見る目が変わりました。また、私たちが見ていないところで、尾辻さんを始め皆さんが、どれだけの作業をしてくださっていたのかと思います。どうもありがとうございます。

そして、里山と稲作と日々の暮らしがどれほど深く結びつき、無駄なく環境を傷つけない方法で営まれていたか。多くを学ばせていただきました。自分の暮らしを振り返って、もっと自然の流れに波長を合わせた暮らしをしたいと心から思いました。お金で解決するのではなく、自分でできることはする、作れるものは作る。きっと、今とは比べものにならないほど、しなければならない“仕事”の多い日々だったと思いますが、その中でいかに暮らしを楽しむか。そうした知恵がすっかり失われ、楽しむと言えば、何か特別なことをすることのように思いがちな自分を反省しました。今の自分は、子育てと仕事と家事で慌ただしいこと極まりなく、便利なものに頼りながら、ますます忙しくなっているような毎日を送っていますが、これからも、少しずつであっても、田んぼの学校で学んだ、豊かさと安心を、自分たちの手に取り戻していきたいと思いました。

作業のあとにいただくおやつや、小宮山さんのアウトドア料理も毎回楽しくておいしかったです。食べることと料理が大好きなムスメはすっかり小宮山さんのファンになり、田んぼに行くと言えば、小宮山さんいるかな～と言っていました。調布に来て良かったです。尾辻さん、皆さん、ほんとうにありがとうございました。

2016年3月6日（日）

矢野あかね

矢野あかね

田んぼ学校に入った動機は、こどもにお米ができるまでを体験してほしいと思ったからです。私の両親は新潟出身で、その実家は兼業農家でお米を作っていました。小さいころ祖父母の家に遊びに行っては、田んぼ周辺で遊んだり、虫をとったりしていました。私にとって田んぼは身近な存在でしたが、田んぼの手伝いをしたことが全くありませんでした。この年になりお米作りを体験できるとは、夢のようでした。お米作りだけでなく、カニ山デイキャンプや案山子づくりなど子どもだけでなく、大人もたのしめるイベントがたくさんあり、子どもや友人とのよい思い出づくりとなりました。調布市佐須に引っ越してきて、5年目となりますが、野川やカニ山だけでなく、田んぼや畑もあり、ここは東京かしらとおもうほど、自然が豊富な場所です。田んぼ学校入学をきっかけに、自然のありがたさや地域のコミュニティが重要であることを改めて学ぶことができました。いつも温かく向けて下さる皆さまがいたからこそ毎回くるのが楽しみとなりました。今回の経験を生かしてこれからも、自然と向き合う機会を作り、子どもとともに日々感謝の気持ちを忘れないように生活していきたいと思います。

(1) 西山光 樹

田んぼ

田んぼで
どうれしか
たことは
おもちが
おいしか
た
ことです。
あとな
あぐくり
て丸な
あが
おな
わとか
かが
であ
た
たの
し
か
た
た
こ
と
で
す
お
こ
れ
か
ら
も
が
ん
ば
り
ま
す
お

※ 左上のNo.は薄いと、写したとき出まませんので鮮明にしてください

たのしかつた いらねん
いねかり、おもちつき、なわなない
たうえ、いきものかんさつ

ろけつとすとぶつかうのたのしかつた
もすかわ ことだ

た たんぼの かつ

今年の田んぼをふりかえって。

増川邦弘

今年と去年目とがた田んぼの学校。

去年目ともなると、人数の多い時は、裏方の作業をまわること
も増えんが、1年を通じて田んぼの様子を見に行くのは本当
に楽しい。

土が茶色し、直播きの土の上で芽が伸びていくのは、毎回神秘的
に感じるし、くさつきやしつかまきで土がところどころにぬめらかに
なっていくのを肌で感じるのも不思議でうれしい。

なによりも稲の穂が実をふくらませていく様子は、うれしく
て、時々見に行ってしまう。

新しい発見として、田植えの手植えの際に、5本以上の稲を
植えると分結しやすく、大きくなりやすい。3本ぐらいでいいんだと
いうこと、書き切れないが、まだまだ分結しやすいこともたくさんある。

縄織りも少しづつ上手くなってきた。今年は3月12日のイベントに参加
して練習したおかげで、尾辻土のいう手の平であって織るほう
に少しはなったことも、うれしい。

一年をふり返って、尾辻土をよむ、多くの仲間の手と
めくりに会って一緒にできたこと、何よりも楽しい。私たちが家族の
宝になっている。

尾辻土、皆で一緒にがんばりました。

田んぼの学校に参加して 今年も3年目でした。

3年目にして、ひとおりの作業が出来たなあと思います。

小さな種が 土とおひさまと水のかで成長し、実り、^{そして}収穫という
恵みをもたらして、嬉しくもあり、不思議でもあります。

どれが欠けても、どれが多すぎて いけないし、また、人が、その自然の
バランスをこわす原因とならぬように いけないと思ってきました。

収穫のあとも縄跳びがあり、お正月のしめ縄や ひと・わらじなど
生活用品となり、小さな種が作る恵みはまだまだ続きます。

小さな種からは “うぐいすのものは生まれず、生かすだけ”

~~季節外れも見つめるといって、多くのものを求める~~

人が自然のサイクルどおりには、^(時間) 順番を守り、多くのものを求めない。
自然から。

与えられたものを存分に生かすことが 第一なんだと思います。

田んぼの学校を 20数年間 続けてくださっている 尾辻さん、奥様、
このよりの学びの機会や すきな方々との出会いの縁
を作ってください ありがとうございました。

増川 和美

卒業式に寄せた

西山 貴代美

長女が小学一年生の時から参加している田んぼの学校は
今年で六年になり、長女はこの春小学校を卒業します。

子どもの成長ははやく、大きいお兄さんお姉さんに遊ん
でもらっていたのが逆に小さい子と遊んであげていたり、
田んぼの作業をほとんど出来ないカサボるけれど、たがお
手伝いができるようになってきました。

学校や学年を越えた仲間と、遊具や携帯ゲームのない中
で自分たちで遊ぶ工夫して楽しむということは、この田
んぼの学校の環境が育んでくれたことだと思います。もし
て作業が手伝いで土に触れ、生き物と出会い、自分たち

が毎日食べているお米がどのようにして出来るかを学び、実際に出来たお米で作られたおもちゃを食べるといふ貴重な体験をしました。この体験は子ども達の心の財産になると思っています。

子ども達の成長に対して自分はというところでも心もとないのですが、出席できない日もあったり来てもほとんど作業できないまま終わってしまいう日もあったりしました。やはり参加する前と比べみると、田んぼの一年の移り変わり、お米の出来る行程が頭での理解だけでなく分かるようになってきたり、ただ今分かるようになってくる間に大きな隔たりがあります。環境に対する意識も変わってきました。と思います。

このような貴重な体験、機会を与えてくれた田んぼの学校、
あの校長先生の尾辻さんには大変感謝しています。あ
りがとうございました。

田んぼにも年通って来たこと

私たち家族は、長女の小学校入学と共に田んぼに通い始めました。その長女がこの春、小学校を卒業して中学生になることから、もう6年が経つことになりました。その間、私たち家族は何か変わったのか改めて考えさせられました。

今年も子供の学校行事や仕事の都合で出席回数が増えなかったことが残念でした。

来年度は、どうか仕事や行事をサボらず田んぼにも来ようと思います。

もう一つ残念だったことは木さんが亡くなったことです。私たち家族の写真もたくさん撮らしていただきましたが、その写真を見ると木さんの人柄がよくあらわれていると思います。

今は大切な仲間を一人失ってほった気持ちです。

今年よかったと思うことは、小宮山さんの植えた枝豆が豊作で、それをみんなで食べられたことです。

夏の天候が不順でお米の収穫量は少なかったですが、枝豆の収穫がそれをカバーしてくれました。もし、田んぼでできるお米を頼りに一年の食料

計画をしていたら、お米の不作は深刻な
問題だ。豆やこく類等の作物は貴重な
保存食になりと思える。

こうした経験ができるのも身近に田んぼ
があるからで、実体験から学ぶことは大きい。
田んぼに果ては子どもたちの気憶の中にも原風景
として田んぼが残っていくと願う。

そして、ここから先形として田んぼが残って
いくことを望む。

西の 光明

田んぼで学んだこと

西山 優菜

私は今年の田んぼの入学式で一番初めに感じたことは、子供が明い！といらことでした。(ご存じの通りに今年度私は最高学年だったので前の先輩はいなくて「私が一番上なんだ！」とやけにいきどおしたのもあるからでしょう。私が低学年だったころ、お父さんに引張られ嫌々行つたはあの田んぼから帰るとき「また帰りたくない！」とよく言つたのは上級生のお兄さん・お姉さんたちが私たちを導きましてくれたからだと思います。思い返してみればおにこや、こや、田植えの前のドロドロの地面にとびこんだり、田んぼの自然の中で工夫してたくさん遊びました。

※ 左上のNoは薄いと、写したとき出まませんので鮮明にしてください

もちろん、田んぼの基本的なことはいっぱい教えてくれました。だから私は入学式、私は「こんなにいっぱい下級生かいて大丈夫かな」と不安になりました。でもその心配は必要なかったようです。子どもは田んぼのような自分の生活にない自然の場所にいけば自分達で工夫して自分達だけの特別な空間で楽しく遊べるのです。(そこで私も思い出しました。上級生に置いてかれちゃった私と同学年の女の子は自然に話すことができ、いつの間にか友達になれたことを。)私は田んぼを分かりきって見ていたようすが、今年の一年で改たためて気付かされたこともあります。中田んぼは常に私たちに色々なことを教えてくれました。中学でも田んぼで学んだことを忘れずに頑張りたいです。

※左上のNoは薄いと、写したとき出ませんので鮮明にしてください。

田んぼの思い出

西山 大樹

田んぼに通って六年がたちました。その六年の間に色々なことがありました。

まず大変だったことは、いねかりです。理由は、いねがたぐさんあって、それを切るのが大変でした。

次に楽しかった事は三つあります。一つ目は、夏祭でゲームしたことです。二つ目は、うかく祭で、たぐたおもちがおいしかったです。三つ目は、田んぼで、たき火をして、そのとき飲んだ、ゆずのジュースがおいしかったです。それと田んぼでサッカーをしたことも、楽しかったです。

最後に、残念だったことは、かかし作りに参加できなかったことです。

来年は、もちも食^がる事^がけ^がなく、もちつきをした
い^がです。

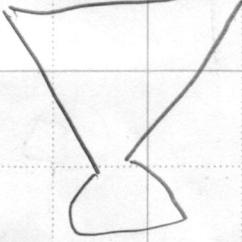
※ 左上のNoは薄いと、写したとき出まませんので鮮明にしてください

3 がつ 6 にち びちようび (みか^①)

く	つ	か	マ		た
る	た	よ	か		し
の	o	プ	い		しま [〃]
あ	お	か [〃]	や	は	か [〃]
い	こ	た	ま	や	つ
た	め	の	ご	し	こ
い	た	し	い	み	う
ア	つ	か	キ	か	

3がわ ⑥にち いちようび (みかい)

ア ア な す は し



い き じ じ

で で お し

た す こ た

へ へ ぬ へ



あ の か 精

す こ た た

い し

岩崎恭子

今年度は、前年度よりなかなか出席できず残念でした。

特に今年の稲刈りは天候のため、もともと子どもの運動会の日だった 1 日のみとなってしまう、収穫の汗と喜びを体験できず残念でした。

子どもは相変わらず農作業そっちのけで虫や水路の生き物に夢中でしたが、親子共々、自然との共存を肌で感じながら、たくさんの勉強をさせていただくことができました。

昨年に引き続き貴重な時間を過ごさせて頂きありがとうございました。

岩崎祐人

お餅を食べるのがたのしかったです。

田んぼでむしをつかまえたり、水にいる水中の虫がいたりしてたのしかったです。

あと、冒険とかできてたのしかったです。

吉田創、吉田志穂、吉田晴、吉田陽侶

昨年 4 月最初の田んぼでの集合の際、次男の陽侶が用水路に頭から落ちて顔面泥だらけになり父親の私がひやひやしたことをまず思い出します。ちょっと人見知りな 6 歳 3 歳の兄弟でしたが、大人の作業を見ながら、出来る作業にひとしきり没頭する姿がみられる場面もあり、良い体験だったと思います。なぜこういう作業が必要なのかまではまだ理解出来ない子供たちでも、いずれ撮った写真等を見ながら振り返ったりする機会があれば、これからの成長過程で自然愛や食物生産について改めて考えて何かに生かせることがあるかもしれません。その時初めて幼少時の貴重な体験だったと思えたら良いですね。我々大人にとっても、泥に足を沈ませながら皆さんで行った田植え作業など、なかなか体験する機会はないでしょうし、良い思い出です。実はこの春、我々家族は神奈川県秦野市に移転します。大人のエゴかもしれませんが、都会で育ってきた息子たちが自然豊かな土地で、新しい人間関係の中で、少しでもたくましく育って欲しいと願って決めたことです。もちろん、我々大人にも同じ目標が課されることになります。そのステップとして、この 1 年間、調布にも貴重な自然があったこと、その中で得られる感性が大切であることを学ばせていただいた尾辻さんや皆さんに、心から感謝致します。

高木美晴 誠吾 汐那 沙予

この1年、双子の汐那（せな）沙予（さよ）を連れて参加できてこととてもよい経験になりました。

田んぼに参加したのは私の故郷が広島の田舎府中の方で田んぼに囲まれたところに育った為娘達にも田んぼを身近に感じてもらいたくだったので、田んぼの経験だけでなく、お祭りやディキャンプやしめ縄作りに加え沢山の方と知り合え、お話できたことがとても嬉しかったです。

娘達は案山子を作ったこと、今でも記憶していて絵本にでてくると必ず「作ったね」といいます。今時「案山子作ったね」と言える3歳児はそうそういないだろうと、嬉しくもあり誇らしいです。

それに二人に経験させたかったとっておきながら、二人と同じくらい楽しんでいたのは私だっと思います。

お米作りのこと多少は知っていたものの、大人になってからまた学ぶというのは感じる事が全く違いました。当たり前ですが、水も天候も虫も草も、全ての生き物のおかげで毎日食べられるということ。それに藁の活用法もしみじみ考えさせられました。「無駄にしない」という昔ながらの教えを大切にしなければならぬと思いました。

来年度、二人は幼稚園に入ります。そのほか、市営で畑をかりて一から野菜作りをすることになりました。来年度の参加、当たり前に参加するつもりでいたのですが畑もあり、新生活が始まりだとキャパオーバーになるのではと不安で泣く泣くですが参加を見送ることにしました。

私の性格上、参加を決めたら必ず出席したい！なので出席できなかつたら落ち込んでしまうたちなんです。せつかく知り合えたのにもったいないなあと思うのですが、1年新生活も畑もやってみてまた来年自分に余裕ができれば参加させていただきたいと思います！

なので、2015年参加者も参加できるような行事あればこれからも連絡いただけると幸いです。

よろしく願いいたします。

「田んぼの学校で学んだこと」 小林博子

子どもたちに米づくり体験や田んぼで泥だらけになって遊ぶ時間を持たせてくれて申し込みにましたが、実際は私が子どもよりも楽しんだ1年だったなあと思います。

おとしは、千葉の農家が開催する田植えや稲刈りのイベントに参加したのですが、1年を通じて田んぼに通ってみてわかったことは、「田植え」「稲刈り」だけではいいとこどりだなど。発芽させて稲にすることや、雑草取り、しろかき、くろつけ…米作りの過程をすべて体験することができました。（もちろん、それでもいち参加者として田んぼに通うのは、

まだまだいいとこどりなのだと思いますが…)

平日は電車で都心に通って、コンクリートの上でパソコンに向かって過ごすので、田んぼで季節の花を見たり、用水路の水で遊んだり、虫を探したりという時間はとても癒される「オフ」の時間でした。

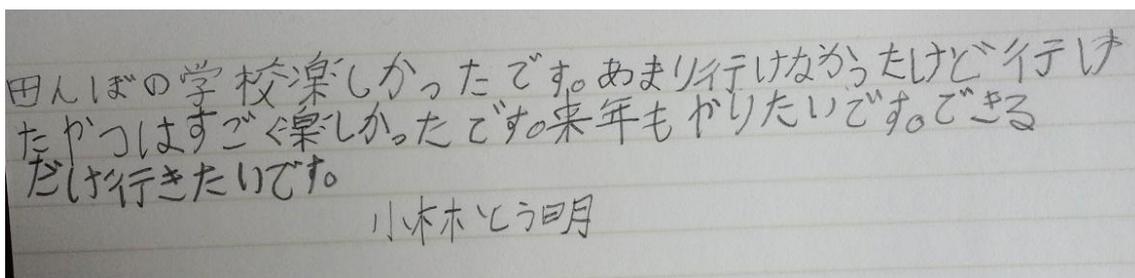
最近、東京を離れて田舎に移住する子育てファミリーが増えています、そういう家族を見ると「まずは調布に住んでみればいいのに」と思ってしまうほどでした。

息子がサッカーをしているので、週末がなかなか忙しく、楽しみにしていたイベントにもすべては参加できなかったのが心残りです。3歳の娘がもう少し大きくなったらもう一度参加したいと思っています。

では、1年間お世話になりました！ 今後ともどうぞよろしく願いいたします。

これからは、facebookでの「今日の田んぼ」を楽しみにさせていただきます。

小林 橙明



「今までをふり返って」 6年 沼田 友和子

私は小学校2年生から田んぼの学校に参加してきました。

田んぼで学んだことは自然と触れ合うようになり、田植えや用水路での遊びのなかでカエルやザリガニは掴めたり触れたり今までは出来なかったことができるようになり、怖いとかきもち悪いという気持ちが減りました。

デイキャンプなどで火をつける時にマキの組み方を覚えたり、マッチで火をつけることも教えてもらいました。

そして体験したことが日常生活のなかで活用できる時もあります。他にも沢山の田んぼでの経験をもっと活かしていきたいと思っています。

来年は私は中学生になるので「田んぼはどうするの？」と父に聞いたら「来年も家族で申し込むよ、部活があっても行ける時は一緒にいけるようにね」とのことでした。

来年もおいしいお餅を楽しみにしています。

平井祐紀

こんにちは

田んぼの学校で、4年間お世話になりました、平井祐紀です。このたび、急なのですが、今月末から、福岡県久留米市に転居することになりました。

昨年末からにわかに転居の可能性が浮上し、2月に引っ越しが確定いたしました。今は、引っ越し作業、家の売却、久留米での新居の用意などで忙しく、最後の卒業式にも出席できず、皆様にご挨拶が叶いませんでしたことが、とても残念です。

田んぼの学校では、調布にしながら農作業を体験させていただき、共に汗を流す貴重なお仲間である皆さま方に恵まれ、思い返すと、皆さま方の温かい笑顔、交わした言葉など、次々と心に浮かんで参ります。田んぼの感触、田んぼという神聖な生き物に触れる尊さ、そういうものも感じ、改めて、田んぼの学校に巡り会って、どんなに幸せだったか、と思います。

共に田んぼ作業ができる仲間というのは、私にとって、とても心安らぐ仲間で、田植えの準備から収穫まで、お餅つきやデイキャンプなど、たくさん貴重な時間を共有させていただいて、楽しい思い出を作らせていただきました。

私たちの調布暮らしは本当に幸せだったと思っておりますが、その理由の一つには、もちろん、田んぼの学校、そして皆様との出会いがあります。

尾辻さん、奥様はじめ、皆様方に、本当に感謝いたしております。

奥様に教えていただいた大根のお漬け物、久留米でも作り続けますね！(^-^)

偶然にも、これから住む予定の久留米市の家の隣には、田んぼがあります。地主さんが遠くに引っ越しされたので、休耕田になるのでは、と心配したのですが、地主さんに相談してみましたら、この田んぼを使って稲作なさるかもしれない方が近くにお住まいで、その方と一緒になさってはでしょうか、とのことでした。

どこまで関わるができるか分からないのですが、田んぼの学校で得られた貴重な体験を無駄にしないよう、新しい地でも、田んぼに関わり続けていけたら…と思っております。そしてできることなら、田んぼの学校で実践してきたように、無農薬で、自然にも人にも優しいお米作りに関われたらなあ…と願っております。

今月末に引っ越しをするのは、私、祐紀と、娘の蒔菜(まな)、息子の慧大(あひきろ)の3人で、まだ夫、康大は、1年間調布の小島町で暮らす予定ですので、ご縁もあろうかと思っております。

私たちは調布を離れますが、精神的には、田んぼの学校、そして皆様の近くにいらしていただくつもりでおりますので(笑)、これで最後ではなく、どうぞ、これからも、よろしく願いいたします。

何かありましたら、ぜひ、ご連絡ください！アドレスです→
yukietoamy@jupiter.ocn.ne.jp

久留米の地にも、遊びに来ていただけたら嬉しいです！

これまで本当に、ありがとうございました。

どうか皆様方が、お元気で、幸せに過ごしていけますよう、久留米から、お祈りいたしております。本当に、ありがとうございました。

堀内拓馬

感想文

昨年度は田んぼに参加してもいないのに卒業式に参加して早いものでもう 1 年が立ちました。年齢を重ねるごとに 1 年が早く感じるようになりますが、この 1 年は特別早かったように思います。

そう感じる要因に田んぼの学校での 1 年が影響しているように思います。

まず当たり前のことなのですが、畑と田んぼは違うなあと改めて気づかされました。ひとつはそのサイクルです。畑の主だった野菜たちはおおよそ 90 日を目処に種植えから収穫となります。おおよそ 3 ヶ月です。田んぼは収穫が年に一度です。365 日をかけて行います。一種類の作物に丸々一年を費やします。

その 1 年に行うことはきっちりと確立されていて、次の季節に行うことの準備を、今から準備しておくといったことの繰り返しです。堆肥作りなどがわかりやすい例だと思います。これを怠ると次の工程がうまくいかない。何ごとにも通じるのですが、準備の出来次第で物事の成否が決まっていくのだと改めて感じました。

そうした作業の中で、植物や、昆虫などの生き物の観察もしてきました。この田んぼの生態系の頂点は蜘蛛とトンボだそうです。その場所、その季節に応じた生命がそこにあって、互いに食べたり、食べられたり、場所を取り合ったりと、それぞれが生き抜くために精一杯の力を使い、その結果、その屍も田んぼの一部となって、それぞれのひとつひとつの意思とは無関係にも、実りの秋にひとつひとつになって向かっていきます。

私たちの口に運ばれるお米はこうした人の歴史が作りだした英知と、あらゆる生命の生死の上になりたっています。子供のころは田んぼや、畑の仕事などは退屈で、友達と泥んこになって遊んだり、虫を捕まえに行くほうに気持ちが向かいましたが、大人になって経験をつみ、理解できることが増えていくことで、子供時分にしていたことも、この一年に行っていることもなんら違いなく、同じことがおきていて、それははるか昔から行われていたことなのだと実感しました。

秋には収穫したお米をみなで、わいわいとお餅つきをしたりして、延々と焚き火をしながら大人も子供も一緒になって田んぼで楽しむことをしてきました。

冬にはお飾りをつくったり、縄ないをするなどしてきました。稲には捨てる部分がない

なと思いました。

たった一年田んぼをただけでも、これだけ感じるがありました。

昨年の卒業式の時にどちらかのお母さんが「初めて地域で子供を育てていると感じた」と感想を述べられていましたが、まさにそうしたことを実感する一年であったと思います。

そしてここに田んぼのすばらしさがあるのだと思います。繰り返す季節に、顔見知りの人たちが去年はどうだったとか、今年はどうだとか口にしながら、遠くで子供たちの歓声を聞き、現れる植物や虫たちで、訪れる季節を感じ、みな労働の対価として自然から得たものを分け合い、楽しみを分かち合うこと。そうしたすべてのことが田んぼひとつでできる。本当にこれが田んぼのすばらしさだと思います。

地域社会が分断されたとか、失われたとか、そうしたことが叫ばれる時代にあって、田んぼの学校は、その年齢や、家族構成が違う多様な人たちがひとところにあつまって何かをともにしていると思います。

田んぼは今その価値を増しています。自然から学ぶことの多様さだけでなく、田んぼを中心とした新しい地域コミュニティーのあり方を示し始めていると感じる一年でありました。

以上

7. 総括報告

「野川で遊ぶまちづくりの会」

代表 尾辻義和

「田んぼの学校」という形で再スタートした、「野川で遊ぶまちづくりの会」の「米つくり」も第15期を終えることになりました。今年度の参加者は基礎講座6組、親子講座31組、スタッフ6名、総勢126名となりました。今年度は、放射能汚染で中止されていた落ち葉拾いを再開しました。

田んぼの作業は毎年同じ作業の繰り返しですが、同じようにできる事は減多になく、目が離せません。今年度は、日照不足があり減収でした。玄米にして100Kgほどを収穫しました。

籾摺り機や精米機は、古い機械を譲り受けて使用していましたが、壊れてしまいました。

これまでの中古機は故障したため、あらたに中古の籾摺り精米機を購入しました。

今年度も、参加して頂いた方々には感想を書いて頂きましたが、「田んぼの学校」の趣旨がきちんと伝わっている事にたいへん嬉しく思っています。年々、参加したいという方が口コミで増えており、ほとんどの皆さんが継続して田んぼをやりたいと言っておられ、かといって、新しく応募される方にも加わっていただきたいとも思っているのです。耕作面積は何とか増やしたいと今後も行政など関係する方々をお願いする次第です。

今年度は、調布市の事業により、佐須の里山保全に進展があり、この地域で田んぼが残すことができるめどができるようになりました。今後、行政がこの地域の畑や田んぼを取得するようなことが発生した場合、市民が畑や田んぼを継続して耕作することが望まれます。私たちの「田んぼの学校」事業がそのお役に立てるよう、事業を継続していきたいと考えています。

昨年も要望いたしましたが、多くの市民が集まって行うため、以下のような問題も放置できなくなりつつある状況にありますので、行政に少しでもご配慮いただければ幸いです。

- (1) 手洗いやトイレ（現在は、竹内さんの設備を使用させていただいている）
- (2) 休憩場所（竹内さんの敷地や道路を使用している。特に道路は子どもたちが遊んだりするため、通行する車に迷惑を掛けている）
- (3) 道具類の置き場所（現在は、竹内さんの納屋などを使用させていただいている）
- (4) 農器具が老朽化（耕運機、籾摺り機）して壊れてしまったので、代替えの機械がほしいところであるが、適当なものがない。現在は中古を購入している。

他にもスタッフ不足など問題はありますが、基礎講座を続ける方をお願いをしてスタッフになっていただきました。さらに、組織強化、事業体制強化などを目的にNPO 調布まちづくりの会への合流を検討中です。少しずつ前進していきたいと考えております。皆様のご指導、ご協力をお願いして、総括とさせていただきます。

以上

発 行

2016年3月31日

野川で遊ぶまちづくりの会

代表 尾辻 義和

〒182-0016

調布市八雲台2-20-8-201

電話 042-487-4385

Mail otsuji@y.email.ne.jp

URL <http://nogawa-tanbo.sakura.ne.jp/>